

フード&メディカルイノベーション国際拠点で落成記念式典を挙行

お知らせ

- ・「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成26年度）」の概要について
- ・被扶養者の要件の確認
- ・夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について



1 「提案し、行動する」事務職員を目指して
(事務職員の能力開発)

全学ニュース

- 2 フード&メディカルイノベーション国際拠点で落成記念式典を挙行
- 2 FMI/COIオープニングイベントを開催
- 3 マサチューセッツ大学ボストン校と大学間交流協定を締結
- 3 ミャンマー パテイン大学と大学間交流協定を締結
- 4 山口総長が日米イノベーション人材育成有識者ラウンドテーブルに出席
- 4 国際連携アドバイザーによる講演会「国際交流－意義、むずかしさ、推進方法－」を開催
- 5 電子教材と遠隔TV会議システムを活用したアクティブラーニング型授業を開講－本学と海外6大学の修士学生64名が受講－
- 6 「出入国管理制度説明会」を開催
- 6 平成27年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙行
- 7 平成27年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行
- 8 第26回北海道大学教育ワークショップ (FD) を開催
- 9 北大フロンティア基金
- 11 北海道大学歴史的資産保存活用シンポジウムを開催
- 12 第10回「食と健康」研究会を開催
- 12 講演会「気候変動問題をビジネスチャンスに－環境技術で地域を創る－」を実施
- 13 「第2回北大発ベンチャー促進懇談会6月例会～企画段階から起業をサポート！！～」を実施
- 14 北キャンパスで合同防災訓練を実施

部局ニュース

- 15 教育学部4年生の加藤依子さんが第3回アルティメット世界選手権に出場
- 15 経済学部で成績優秀者表彰式を挙行
- 16 会計専門職大学院で日本内部監査協会と共催セミナーを開催
- 17 会計専門職大学院主催による「会計プロフェッションとは!？」を開催
- 18 会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催
- 18 薬学部でFD研修会を開催
- 19 メディア・コミュニケーション研究院公開講座「大衆文化から考える日韓の65年体制」が終了
- 19 国際広報メディア・観光学院, メディア・コミュニケーション研究院 講演会「『アフリカの奇跡』ルワンダの光と闇:ジェノサイド後の国民統合と和解プロセスをめぐって」が終了



会計専門職大学院
日本内部監査協会と共催セミナーを開催



5研究所・センター合同一般公開



FMI/COIオープニングイベント



マサチューセッツ大学ボストン校と
大学間交流協定を締結

- 20 5 研究所・センター合同で一般公開を開催
- 23 環境科学院で北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催
- 23 北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林と大学院生が地元企業と協力して柚子ドリンクを開発
- 24 北方生物圏フィールド科学センターで「花・ハーブ苗販売」を開催
- 24 環境健康科学研究教育センターが研究交流会を開催
- 25 附属図書館新渡戸カレッジ応援イベント「Study in Europe!」を開催
- 26 附属図書館, 総合化学院で博士論文のインターネット公表に関する説明会を実施
- 27 リーディングプログラム大学院生が全国博士課程教育リーディングプログラム学生会議を開催

お知らせ

- 28 「北海道大学の役職員の給与等の水準 (平成26年度)」の概要について
- 29 被扶養者の要件の確認
- 29 夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について

博士学位記授与 30

同窓会との交流

- 32 平成27年度北海道大学連合同窓会評議員会・幹事会合同会議の開催

レクリエーション

- 33 平成27年度学内職員バドミントン大会 (個人戦) の開催

諸会議の開催状況 36

学内規程 37

研修

- 38 平成27年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

表敬訪問 39

人事 40

- 43 新任部局長等紹介
- 44 新任教授紹介
- 44 新任部課長等紹介



附属図書館新渡戸カレッジ応援イベント
「Study in Europe!」



全国博士課程教育リーディングプログラム
学生会議

「提案し、行動する」事務職員を 目指して（事務職員の能力開発）

理事・事務局長 むらた なおき
村田 直樹



法人化と事務職員

平成16年に国立大学が法人化されるに当たって、事務職員の在り方について種々議論がありました。議論の中には、例えば、「事務職員には企画力が不足している」、「事務職員から提案が上がってこない」等々の指摘や不満も含まれていました。こうした議論は法人化10年を経てもなお続いています。法人化を契機として、教職協働と言われるように、事務職員がこれまで教員の領域とされていた事項も含めて、「提案し、行動する」ことが求められるようになったのだと思います。このように「教員」と「事務職員」の関係をパートナーシップとして再構築していくことが求められていたはずですが、必ずしもそのような関係を築けていないのが現状ではないでしょうか。

本学には、「提案できる」し、「行動できる」事務職員が多数います。このような潜在力をもった者を「提案し、行動する」事務職員にしていく必要があります。時には「出しゃばり過ぎる」くらいの行動力も必要ですが、そうした行動力を支える知識（情報収集・分析を含む）や経験がなければ、迷惑な「出しゃばり」でしかありません。知識や経験は一朝一夕で身につくものではないので、日頃から本学で行われている教育や研究に関心をもって職務を遂行することが大切です。疑問に思ったことは調べたり、時には人に聞いたりすることも必要です。各事務職員がこうした心構えを持つと同時に、各種の研鑽の機会を用意して事務職員の能力開発を支援する必要があります。

事務職員の研鑽機会

法人化前から、事務職員には、日常事務処理能力を育成するための研修機会が設けられていました。人事院等外部機関が実施する研修への参加だけでなく、本学独自に初任職員研修、中堅職員研修など職階に応じた研修が行われていました。また、会計系や人事系を中心に専門領域に焦点を当てた研修の機会も設けられていました。

これらの研修は、法人化後も基本的に引き続き実施されておりますが、法人化に伴って研修内容の見直しを行ったところでした。学生支援や教務事務、能力別の英語研修など専門能力の向上を目的とする研修も充実しました。また、必要に応じて、国立大学協会と共同して道内の国立大学や高等専門学校などの職員にも対象を拡大して行っています。さらに、今年度から新たに「ユニバーシティー・アドミニストレーター育成講座」という企画力の開発を企図するアクティブ・ラーニング型の研修も始めたところでした。

大学が研修の機会を用意することは大切ですが、この種の研修は能力開発のきっかけでしかないと思っています。研修後も自己研鑽を積むことが「実力」をつける上で「鍵」となります。当然OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）による能力開発も重要ですが、自ら主体的に研鑽を重ねることで自立的な職員として成長していくことが求められます。このため、法人化後は、自己研鑽型の研修にも資金援助を行っています。今年から、事務職員の自己研鑽を後押しする意味も込めて、身上調書に自己研鑽の欄を設けるとともに、これを人事評価の項目に追加することとしました。

これらの取組を有機的・総合的に推進して、「提案し、行動する」事務職員の育成に努めたいと考えていますので、関係各位のご理解とご協力をお願いいたします。

■全学ニュース

フード&メディカルイノベーション国際拠点で落成記念式典を挙行



フード&メディカルイノベーション国際拠点

フード&メディカルイノベーション（FMI）国際拠点のオープンを記念して、5月28日（木）、落成記念式典を行い、約170名の方々にご来場いただきました。

記念式典では山口佳三総長の挨拶からはじまり、文部科学省文部科学審議官の土屋定之氏、北海道副知事の山谷

吉宏氏、札幌市長の秋元克広氏、岩見沢市長の松野 哲氏、日東電工株式会社代表取締役 取締役社長の高崎秀雄氏、株式会社日立製作所 ヘルスケア社CTOの長我部信行氏からの祝辞をいただくとともに、オープニングセレモニーを行いました。

FMI国際拠点は「ひとつ屋根の下」



テープカットの様子

をコンセプトに、産学官地域と市民が多様なかたちで集い、札幌農学校時代から続いてきた「食」にまつわる研究と医療分野の先進的な研究の融合を図るべく協働し、革新的な研究開発を展開していきます。

（産学・地域協働推進機構）

FMI/COIオープニングイベントを開催

フード&メディカルイノベーション（FMI）国際拠点では、広く一般の方へ本拠点と事業内容を知っていただくため、FMI/COIオープニングイベントを開催しました。

COI「食と健康の達人」拠点では、「プレママから、子育て、高齢者の健康を守り、病後も美味しい食と楽しい運動で“笑顔のあふれる社会”」の実現を目指しており、今回のオープニングイベントでも「食と健康の達人になろう！」をテーマに様々な講演や科学体験会を行いました。

本イベントでは、東京大学名誉教授の上野川修一先生や元女子マラソン選手の有森裕子氏による基調講演、人工いくら作成や消化管体験ツアーなどを企画し、子供から高齢者まで幅広い年齢層の方々にお越しいただき、大盛況のうち幕を閉じました。

終わりに、本イベント開催に当たりご配慮・ご協力いただきました皆様に改めてお礼申し上げます。

（産学・地域協働推進機構）

オープニングイベント一覧

- ・ 5月29日（金）
「COIフォーラム『食と健康の達人』」
- ・ 5月30日（土）
「楽しい運動」
「心臓病にならない・なっても治せる」
- ・ 6月1日（月）
「セルフヘルスケア」
- ・ 6月2日（火）
「市民ワークショップ『腸から健康になろう』」
- ・ 6月6日（土）
「親子で楽しむ科学体験」
- ・ 6月10日（水）
「食べて健康！い～しょく北海道」



楽しい運動



親子で科学体験



マサチューセッツ大学ボストン校と大学間交流協定を締結

6月25日（木）、山口佳三総長は、米国ボストンにおいてマサチューセッツ大学ボストン校との学術交流に関する協定及び学生交流に関する覚書の調印を行いました。

マサチューセッツ大学ボストン校は、5校あるマサチューセッツ大学システムの中の1つで、11のColleges/Schoolsをもつ州立大学です。マサチューセッツ大学は、前身のマサチュー

セッツ農科大学長であったクラーク博士が、本学の前身である札幌農学校の初代教頭を務めたことにより本学とは縁のある大学で、これまで同大学アマースト校との間で長きにわたり友好関係を築いてきました。今回のボストン校との協定の締結により、両大学間の更なる教育・研究交流の推進が期待されます。

なお、同日、山口総長はマサチュー

セッツ大学アマースト校を訪問し、Kumble R. Subbaswamy学長と両大学間の協力について意見交換を行ったほか、クラーク博士の展示やメモリアルモニュメントをはじめ、キャンパスを見学しました。

（国際本部国際連携課）



ボストン校との大学間交流協定調印式で山口総長とDr. Winston Langley 副学長



アマースト校で山口総長とSubbaswamy学長



アマースト校
クラーク博士メモリアルモニュメント

ミャンマー パテイン大学と大学間交流協定を締結

6月29日（月）、ミャンマーのパテイン大学と学術交流に関する協定及び学生交流に関する覚書の調印を行いました。調印式には、パテイン大学からNyunt Phay学長ら2名、本学から山口佳三総長、上田一郎理事・副学長、横田 篤農学研究院長、久保川厚地球環境科学研究院長、安井 肇水産科学

研究院長ら6名が出席しました。

パテイン大学は1958年に設立された大学です。社会科学、理学、法学の3学部と社会科学、農業・海洋科学、生命科学技術、科学・環境科学、法学の5大学院等を有し、学生約5,900人と教職員約730人が在籍しています。本学では農学研究院をはじめとして、水

産科学研究院や地球環境科学研究院でも、それぞれ同大学との交流を進めてきました。

本協定の締結により、両大学の更なる教育・研究交流の推進が期待されます。

（国際本部国際連携課）



署名後の山口総長とPhay学長



調印式後の記念写真

山口総長が日米イノベーション人材育成有識者ラウンドテーブルに出席

6月23日（火）午後、山口佳三総長は米国ワシントンD.C.で開催された日米イノベーション人材育成有識者ラウンドテーブルに出席しました。この会合は総理訪米等で日米同盟強化の機運が高まる中、日米両国の大学、産業界のトップが日米で共通する課題について意見交換を行う場を設け、科学技術及び教育分野での21世紀の日米関係を確固たるものとするとともに、人類繁栄への新たな協力関係構築に資するため、今回初めて開催されたものです。

泉博康在米日本大使館首席公使の開会挨拶の後、森田正信文部科学省高等教育局高等教育企画課長が下村博文文部科学大臣のメッセージを代読しました。続いて米国側は、米産学フォーラム（Business Higher Education Forum: BHEF）からウィリアム・E・カーワン（メリーランド大学学長）、日本側は松本紘（理化学研究所理事長）の挨拶が

ありました。

山口総長は、理化学研究所の松本理事長をモデレーターに、ステファン・ジョエル・テッヘンバーク（ジョージ・ワシントン大学名誉学長）、カーワン（メリーランド大学学長）、中村道治（科学技術振興機構理事長）が登壇した Session #1: New Education for Innovative era - Beyond STEM Education -（セッション1：新たなリベラル教育）において、NITOE教育システムを中心とする本学の教育改革について発表を行いました。Session #2: Data Science and how we prepare（セッション2：データサイエンスの協働発展）では、現代社会に必要なデータサイエンス分野の技能にどのように取り組むかについて、米産学フォーラムCEOのブライアン・K・フィッツジェラルド氏をモデレーターに、デビッド・B・ウィリアムズ（オハイオ州立大学工学部長）、パ

トリック・オセア（メリーランド大学副学長）、クリストファー・ヴァレンティノ（ノースロップ・グラマン社サイバーインテリジェンス部門ディレクター）、安西祐一郎（日本学術振興会理事長）、辻井潤一（産業技術総合研究所人工知能研究センター長）が発表を行いました。

会合では、日米の機関における取り組みの発表と意見交換が行われ、最後にマーク・ライトン（ワシントン大学セントルイス校学長）が閉会の辞を述べて散会となりました。

なお、山口総長は同日午前には開催された米産学フォーラムのメンバーズミーティングに出席し、データサイエンスに関する米国の学界と産業界による議論に耳を傾けました。

（国際本部国際連携課）



発表する山口総長



ラウンドテーブルの様子



国際連携アドバイザーによる講演会「国際交流－意義、むずかしさ、推進方法－」を開催

本学では、国際交流事業の推進のために名誉教授の木村汎氏に国際連携アドバイザーを委嘱しています。木村アドバイザーには、本学の国際化推進、特にロシア及び中東欧地域との交流について、総長に助言をいただくこととしております。

6月26日（金）に百年記念会館大会議室において、役員、部局長、評議員、部課長を対象として、木村氏による「国際交流－意義、むずかしさ、推進方法－」と題する講演会を開催しま

した。講演では、ロシア、東欧での木村氏の研究や経験を基に、時々ユーモアのある話題を交えて、幅広い示唆的なご意見をいただき、大変貴重な機会となりました。今後も、教職員、学生

に対して、様々な機会を通じて、国際化推進に関するご助言、ご指導をいただくこととしています。

（国際本部国際連携課）



講演する木村氏



会場の様子

電子教材と遠隔TV会議システムを活用したアクティブラーニング型授業を開講—本学と海外6大学の修士学生64名が受講—

本学と海外の大学がコンソーシアムを組んで実施する大学院共同教育プログラム—「人口（Populations）・活動（Activities）・資源（Resources）・環境（Environments）の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム」（通称「PAREプログラム」）では、海外の交流協定校の学生や交流協定校に留学中の北大生が遠隔地にながら講義を受講できるよう、TV会議システムを活用した講義「PARE基礎論」（Ⅰ～Ⅲ）を平成25年度から開講しています。

平成26年度は、受講者の半数以上がインドネシアとタイの国際交流協定校など遠隔地の受講者であることを考慮し、従来のTV会議システムによる遠隔授業に加え、自宅での電子教材の視聴による事前学習（eラーニング）を「PARE基礎論Ⅲ」に導入しました。今年度は更に、「PARE基礎論」（Ⅰ～Ⅲ）全てにeラーニングによる事前学習を導入しました。なお、eラーニング教材の作成にあたっては、本学オープンエデュケーションセンターの協力を受けました。

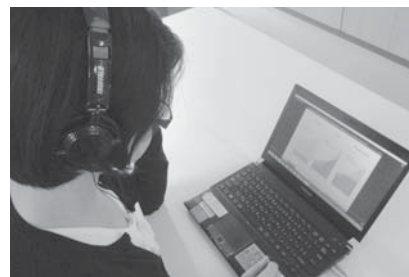
6月11日（木）から開講した「PARE基礎論Ⅰ」は、本学の札幌・函館キャ

ンパス及び、インドネシアとタイの6大学から計64名の学生が受講しました。遠隔授業やeラーニングは、これまでも本学で行われてきましたが、これほど多くの学生が海外からインターネットを通じて受講する講義は他に例がないのではないかと思います。

本科目のもう一つの特徴は、教室での授業においてディスカッションを中心とした「アクティブラーニング」を導入しているところです。国籍・文化・学問分野が異なる学生がグループになり、一つの課題について議論し、結果を発表します。学生は、事前にeラーニングで講義を受講し、予習しているため、専門分野が異なる学生でも、比較的スムーズに議論に参加することができます。

「PARE基礎論」は、これまで本学の農学院、工学院、水産科学院、環境科学院、情報科学研究科の教員が共同で講義を提供してきましたが、平成28年度は、更にインドネシア、タイ、欧米諸国のトップ大学の教員が提供する講義が加わる予定です。

（国際本部国際連携課）



自宅での電子教材の視聴（eラーニング）



教室でのアクティブラーニング



遠隔地の学生とのディスカッション

「出入国管理制度説明会」を開催

6月24日（水）に、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室において、「出入国管理制度説明会」を開催しました。

この説明会は、日頃留学生をはじめとする外国人に関わる機会の多い方々に、最新かつ正確な出入国管理制度を知っていただくことを目的としており、本学を含む25の高等教育機関・関係団体から85名の参加がありました。

説明会では、法務省札幌入国管理局審査部門統括審査官の池 玲子氏によ

る「出入国管理制度について」、そして農林水産省動物検疫所北海道出張所所長の田中耕司氏と北海道農政部生産振興局畜産振興課主査の今野泰博氏による「外国人留学生受入大学における家畜防疫上の注意点」の講義に参加者が一同が熱心に耳を傾け、講義終了後も講師へ質問する参加者の姿が見受けられました。

（国際本部国際交流課）



講義風景

平成27年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙



受賞者記念撮影

6月25日（木）、高等教育推進機構大会議室において、平成27年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙

行し、6名の学生が受賞しました。レーン記念賞は1・2年次の英語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、昭和40年から「レーン記念奨学金」として始まり、平成9年からは「レーン記念賞」と名を改め、今回を含め363名の学生に授与されています。

授与式では新田孝彦理事・副学長、渡邊 洋名誉教授、外国語教育センターから奥 聡教授、土田映子准教

授、そして出口寿久学務部長の列席のもと、奥教授からレーン記念賞の歴史と、本賞に名をいただいているハロルド・Mレーン（Harold M.Lane）先生の功績についての説明がありました。

次いで新田理事・副学長から受賞者へ賞状、記念メダル及び図書カードが授与され、「皆さんには今後も英語力により一層磨きをかけて、国際性豊かで周囲から敬愛される人間を目指していただきたい」との挨拶がありました。

（学務部学生支援課）



授与式の様子

受賞者

文学部	堀内 一希
教育学部	古川 優
法学部	ナカカ モイラ カヲ
工学部	春日 遥
工学部	稲田 一稀
農学部	永森 彩奈

平成27年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙



受賞者記念撮影



授与式の様子

6月26日（金）、高等教育推進機構大会議室において、平成27年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行し、10名の学生が受賞しました。

宮澤記念賞は、1年次に履修した外国語科目のうち、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び韓国語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、今回が第1回目の表彰となります。

授与式では新田孝彦理事・副学長、鈴木純一外国語教育センター長の列席のもと、新田理事・副学長から受賞者へ賞状及び図書カードが授与され、「本賞創設の意義とともに我が国と世界の有様に関心を払いつつ、今後の学生生活を充実させていただきたい」との挨拶がありました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	齋藤 直緒
文学部	七崎 航
工学部	本谷 誠正
文学部	ワイルズ 絵文
法学部	藤谷 和廣
経済学部	中川 岳士
法学部	河口 菜奈
文学部	宮尾 伊織
法学部	播磨 まりや
薬学部	高橋 理

第26回北海道大学教育ワークショップ（FD）を開催



会場のホテル前での集合写真

本学に着任して5年以内の教員を対象とした新任教員研修（北海道大学教育ワークショップ）を6月19日（金）・20日（土）の両日、北広島市の北広島クラッセホテルを会場に合宿形式で開催しました。

本ワークショップは、本学が平成10年度から毎年実施しているもので、平成19年度からは、春と秋の年2回実施しています。

今回は、本年4月1日付けで高等教育推進機構に設置された高等教育研修センターが企画・主催し、「学生主体型授業の設計」をテーマに開催しました。教員29名の参加があり、仮想の授業科目を立案し、そのシラバス作成を通じて、教育の基礎を理解し、授業のデザイン方法、新しい教育手法等を身に付けることを目指しました。

開催にあたり、弐 和順高等教育推

進機構副機構長から挨拶があった後、バスで北広島へ移動し、5グループに分かれて「自分の教育観を考える」と題した研修を行い、その後、シラバスを作成するメインプログラムに入りました。

このプログラムでは、課題の「講義」、「グループ討論」及び「成果の発表、全体討論」を1セットに3つの課題を3セット行い、参加者はシラバスを具体的に作り上げていく過程を通して、授業の目的・内容・評価方法の3つの基本的要素を体験的に学びました。また、各セットの間には自身のシラバスの校正と講師による添削、授業での悩みを解決する方法を考える研修を行いました。

最後に、高等教育研修センター副センター長の細川敏幸教授から受講者へ教育ワークショップ修了証書が手渡さ

れ、全日程が終了しました。

今回作成された仮想科目のシラバスは、講師の間でも完成度が高いと評判で、参加者が熱意を持って本ワークショップに取り組んだことがうかがえました。また、事後アンケートでは、異分野の先生方と交流できて良かった、シラバスの作成プロセスが理解できて良かった、他の先生の授業に対する考え方を聞くことができて参考になった等の意見が見られ、大変有意義なワークショップとなりました。

高等教育研修センターでは、今年度は、本ワークショップの実施回数を年3回に拡大し、9月にも学内において実施するなど、既存のFDに加えて新しい試みも計画していますので積極的

にご参加ください。



グループ討論の様子



課題成果発表の様子



修了証書授与の様子

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	17,148件	3,020,614,637円
基金累計額（6月30日現在）	教職員の寄附率	34.5%（1,353件/3,921人）

6月のご寄附状況

法人等6社、個人747名の方々から12,791,577円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

茨水会、日本ゼオン株式会社、北水同窓会札幌支部、北大さんさん会40周年記念の集い

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	浅野 賢二	穴田 仁洋	天野 大樹	新井 勝義	石井紀恵子	石田 典孝	入澤 秀次
上野紀四郎	大畑 昇	小内 透	小原 大和	婦山 雅秀	加藤美津江	金川 眞行	川上 太平
川崎 勝	川村 将	河本 充司	熊谷 茂	栗橋 秀幸	今 重之	近藤 利恵	斉藤 久
境 政人	佐久間 崇	桜井 謙介	佐々木俊夫	三升畑元基	清水 辰己	清水 俊幸	清水 智之
杉江 和男	須田 孝徳	瀬戸 務	瀬名波栄潤	高橋真奈美	高橋 義則	竹川 秀幸	田所厚一郎
田中 稲蔵	多留 偉功	千葉 敏郎	土家 琢磨	寺澤 睦	外館季美江	豊田 威信	仲 裕
中嶋 博	中司 哲雄	中西 幸二	野口 豪	橋本 辰夫	橋本勇二郎	林 正敏	人羅菜津子
藤井 雅美	保寿 学	本郷 隆二	マクラガ マーヴイン	増山 昌弘	松永 茂樹	水沼 良幸	湊 公夫
安田 友洋	山内 隆嗣	山野 眞市	山廣 規之	吉田 広志			

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

日本ゼオン株式会社

（個人）

大畑 昇、佐々木俊夫、杉江 和男、仲 裕、湊 公夫

感謝状の贈呈

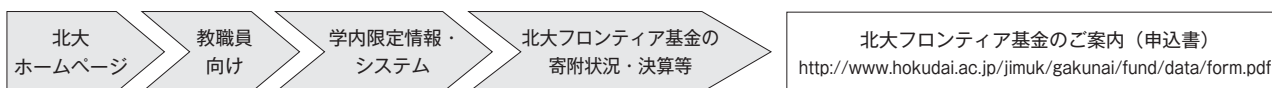


茨水会 様（平成27年7月10日）

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

④ クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ（<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>）のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

北海道大学歴史的資産保存活用シンポジウムを開催

6月13日（土）に施設・環境計画室主催「北海道大学歴史的資産保存活用シンポジウム」を遠友学舎において開催しました。

シンポジウムに先立ち、午前中に札幌農学校第二農場において、平井卓郎名誉教授及び工学研究院所属教員の解説付き見学会を2回開催し、市民の方など約30名が参加しました。

午後から開催した本シンポジウムは、本年3月、本学が所有する重要文化財である第二農場及び植物園・博物館18棟の耐震改修工事が竣工したことを機会に、これからの大学における歴史的資産の保存と活用のあり方について、公開形式で広い視野から議論する場となりました。

施設・環境計画室長である三上 隆理事・副学長による開会の挨拶、次いで施設・環境計画室歴史的資産活用タスクフォース長である工学研究院の小

澤丈夫准教授の主旨説明の後、第I部では「北大の歴史的資産の現状と取り組み報告」と題して、公益財団法人文化財建造物保存技術協会の中内康雄理事から、今回の耐震改修工事にあたったの課題と対策、技術的工夫と新規性について講演いただいた他、本学の教員4名から本学の歴史的資産の現状、並びに保存と活用に関する考え方と取り組み事例の紹介がありました。

続く第II部では、「北大札幌キャンパスの歴史的資産の活用に向けて」と題して、大阪大学適塾記念センターの江口太郎招へい教授から、大阪大学における文化財保存活用の戦略と適塾における取り組みについて講演いただきました。その後、第I部、第II部のプレゼンテーションを踏まえ、文化庁文化財部の西岡 聡調査官をはじめ本学名誉教授及び本学施設部長らのパネリストが、札幌キャンパスにおける歴史

的資産活用のあるべき姿について、第I部講演者と共に議論をしました。活発な質疑応答及び意見交換が行われ、本学の歴史的資産の持つ非常に高い価値と可能性を確認し、盛会裡に終了しました。

シンポジウムの来場者は100名を超え、いただいた質問・意見からも関心の高さをうかがい知ることができました。

今後も、教育・研究・社会貢献、そしてブランド化の大きな資源であり、本学の特色のひとつである歴史的資産の保存・活用について、大学の内外において共有する機会を作りたいと考えています。

最後に、本シンポジウム開催にあたり、ご配慮・ご協力いただきました皆様に改めてお礼申し上げます。

（施設部施設企画課）



第二農場見学会の様子



シンポジウムの講演に熱心に耳を傾ける来場者

第10回「食と健康」研究会を開催

6月17日（水）、フロンティア応用科学研究棟1階セミナー室において、産学・地域協働推進機構が主催する第10回「食と健康」研究会を開催しました。今回は「食と脳機能」をキーワードとして、杏林大学医学部の古賀良彦教授より、食品が脳機能に与える効果の評価や測定について講演いただきました。また本学からは、昨年、農林水産省 異分野融合共同研究（補完研究）に採択された医学研究科精神医学分野の久住一郎教授より「日本食によるストレス・脳機能改善効果の解明」の研究概要について、また古賀農人特

任助教より、現在進行中の研究成果についてホットな話題の提供がありました。講演を通して「食」と脳機能が深く関わっていることが示唆され、今後の日本食の評価につながる研究成果が期待されます。

本研究会では、「食と健康」をテーマに学内外の講師や若手研究者が研究成果等を発表し、交流することを目的としています。この研究会は、安全・安心で高品質な「食」に恵まれた北海道において、「食」「健康」「医療」分野のプロジェクト創成を目的とした、産学官のプラットフォームとして

機能することを目指し、定期的を開催しています。

本研究会の事務局は産学・地域協働推進機構が担っていますが、今後も皆様の期待に応えられるよう、新たなプロジェクト形成に向けて、関係者のご協力を得ながら具体的な成果の創出を目指してまいります。

本研究会に興味のある学内研究者は、お気軽にお問い合わせください。

◆E-mail : jigyo@mcip.hokudai.ac.jp

（産学・地域協働推進機構）



会場の様子



杏林大学 古賀教授



医学研究科 久住教授



医学研究科 古賀特任助教

講演会「気候変動問題をビジネスチャンスにー環境技術で地域を創るー」を実施

6月17日（水）、フロンティア応用科学研究棟の「鈴木章ホール」にて、講演会「気候変動問題をビジネスチャンスにー環境技術で地域を創るー」を実施しました。

この講演会は、在札幌米国総領事館、本学の産学・地域協働推進機構及び工学系連携推進部の主催、北海道、札幌市、北海道経済連合会、株式会社北洋銀行、北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会の後援により実施しました。

まず、在札幌米国総領事館領事のセオドア・ディール氏の趣旨説明と挨拶から始まり、ケン・ヘイグ博士（Opower 渉外部 ディレクター）により、「気

候変動問題をビジネスチャンスにーアメリカの新たな挑戦ー」をテーマに基調講演が行われました。

後半は、パネルディスカッションを行いました。本学の産学・地域協働推進機構産学推進本部長の山本 強教授をモデレーターに、ヘイグ博士と本学工学研究院の長野克則教授、富士電機株式会社スマートコミュニティ総合技術部部長の増渕正裕氏をパネラーに迎え、①環境問題に対応する技術開発例、②環境ビジネスで地域社会と適応する例や地域の雇用創出効果、③スタートアップ企業が「省エネや自然エネルギー利用技術など」のビジネス・モデル構築で目指すべき方向、④地域



開会挨拶 ディール氏



基調講演 ヘイグ博士

から環境問題をビジネスチャンスに変えるには？という視点で意見交換を行いました。

ディール氏とヘイグ博士の流暢な日本語による挨拶と講演で、より一層、アメリカを近くに感じた講演会となりました。また、アメリカの先進的なス

タートアップ企業の事例が理解できたことはとても意味深く、在札幌米国総領事館、Opowerとの今後の連携関係を期待して活動をしてまいります。

(産学・地域協働推進機構)



パネルディスカッションの様子

「第2回北大発ベンチャー促進懇談会6月例会～企画段階から起業をサポート！！～」を実施

6月18日(木)、工学部にて「第2回北大発ベンチャー促進懇談会6月例会～企画段階から起業をサポート！！～」を実施しました。

この懇談会は、本学の教員、学生などが保有する起業計画を発掘し、支援の機会を拡大することを目的として開催するもので、主催が本学産学・地域協働推進機構と工学系連携推進部、共催として独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道本部、後援が経済産業省北海道経済産業局、北海道、札幌市、北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会、一般財団法人さっぽろ産業振興財団、公益財団法人北海道中小企業総合支援センター、株式会社東京大学エッジキャピタル、北海道ベンチャーキャピタル株式会社となっています。

まず、産学・地域協働推進機構の牧内勝哉副機構長の趣旨説明と挨拶から始まり、ショートプレゼンテーションとして、①「NEDOにおけるベンチャー支援の取り組み」をテーマに国立研究

開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)副理事長の倉田健児氏、②「スタートアップを支援するVC」をテーマに北海道ベンチャーキャピタル株式会社代表取締役社長の三浦淳一氏、③「大学人が起業を決断するとき」をテーマに株式会社スマートサポート代表取締役の鈴木善人氏に登壇いただきました。最後は、工学系連携推進部長の増田隆夫教授の挨拶で閉会となりました。

なお、ショートプレゼンテーションの後、3名の講師による個別面談会を行い、事前もしくは当日に申し込んだ

参加者からの起業及び起業経験に関する質問や相談に対応していただきました。

本懇談会は、今後、ほぼ月例で実施していく予定です。既に起業プランがある方はもちろん、漠然とした起業への思いを抱いている方も、是非ご参加ください。

◆問い合わせ先

産学・地域協働推進機構産学推進本部
創業デスク担当 須田

E-mail: startup@mcip.hokudai.ac.jp

内線: 9559

(産学・地域協働推進機構)



開会挨拶 牧内副機構長



NEDO 倉田氏



北海道ベンチャーキャピタル株式会社 三浦氏



株式会社スマートサポート 鈴木氏



閉会挨拶 増田工学系連携推進部長

北キャンパスで合同防災訓練を実施

北キャンパスでは6月11日(木)午前11時より、創成研究機構、電子科学研究所、触媒化学研究センター、次世代ポストゲノム研究センター、人獣共通感染症リサーチセンター、シオノギ創薬イノベーションセンター、産学・地域協働推進機構合同の防災訓練を実施しました。

訓練当日は、札幌市北消防署の立ち会いのもと、500名を超える学生・教職員等の参加により、創成科学研究棟

4階からの出火を想定した自衛消防隊による通報連絡、避難誘導、初期消火等の各訓練に併せて、学生・教職員等による一次避難場所、避難集合場所への避難訓練等が、防災行動の能率・統制的推進と防災意識の高揚を図ることを目的に行われました。

避難訓練終了後、水消火器による消火訓練を実施し、その後、札幌市北消防署員より近年の札幌市における火災発生状況についてと火災発見者による

速やかな初期消火の重要性についての講評をいただきました。また、自衛消防隊本部長の川端和重創成研究機構長から訓練参加者及び協力者への慰労の辞と、今回の訓練での諸問題をフィードバックし実際の火災に生かすことの重要性について講評があり、一連の訓練を終了しました。

(研究推進部研究支援課)



避難通報・避難放送の様子



避難する参加者

■ 部局ニュース

教育学部4年生の加藤依子さんが第3回アルティメット世界選手権に出場

7月12日(日)～18日(土)に英国ロンドンにおいて開催された世界U-23アルティメット選手権大会のウイメン日本代表21人のメンバーとして、教育学部4年生の加藤依子さんが選ばれました。

このアルティメット(Ultimate)という競技は、7人からなるチームが

ディスクをパスしながら運び、敵陣エンドゾーン内で味方からのパスをキャッチするとポイントとなる、得点を競うものです。球技にはない飛行特性があるディスクを使いこなし、また、スピードや持久力を必要とすることから“究極(Ultimate)”と名付けられました。

教育学部では、7月6日(月)に教育学部小会議室において壮行会を行い、教職員及び同窓会からの寄附金を贈呈しました。

(教育学院・教育学研究院・教育学部)



日本代表に選ばれた加藤さん



抱負を語る加藤さん



小内 透研究院長から寄附金の贈呈

経済学部で成績優秀者表彰式を挙行



本年度の受賞者

6月25日(木)、経済学部会議室において、経済学部「成績優秀者表彰制度」及び「英語力ブラッシュ・アップ・プログラム」による表彰式を行いました。

「成績優秀者表彰制度」は、前年度に修得した成績がGPA順位の上位者で、かつ、一定単位以上の学部専門科目を履修した者のうちから、学部長が学生の模範となるような成績優秀者を選考し表彰するとともに、Dean's List(成績優秀者名簿)に登載し、末永くその努力と名誉を讃えることを目的と

しています。今年度は3年次学生10名、4年次学生9名の計19名が表彰されました。

また、「英語力ブラッシュ・アップ・プログラム」は、英語力の継続的な向上を自発的に図ろうとする学生に対するインセンティブとして教育助成金等を授与するもので、エントリーした学生にTOEIC・TOEFL受験料の一部を補助し、さらに指定期間において、そのスコアの向上が特に顕著であった者に対し特別表彰するもので

す。今回は3年次学生1名、4年次学生2名の計3名が特別表彰されました。

表彰式では、吉見 宏経済学部長が出席者全員に表彰状と副賞を手渡した後、賞賛と激励の言葉を述べました。引き続き行われた懇親会では、新渡戸賞を受賞した本学部の2年次学生も招待され、親睦を深めました。経済学部では、今後も学生の学習意欲向上を促すための取組みを行っていく予定です。

(経済学研究科・経済学部)

会計専門職大学院で日本内部監査協会と共催セミナーを開催

会計専門職大学院（経済学研究科会計情報専攻）では、平成18年度から、一般社団法人日本内部監査協会と共同で、内部監査に関わるセミナーを開催しています。6月3日（水）には、日本内部監査協会の機関誌である「月刊監査研究」の創刊40周年を記念し、学術交流会館小講堂において第8回の共催セミナーを開催しました。

「リスクマネジメントと内部監査」を全体テーマとし、自然災害や経済・社会環境の変化などに起因する“マクロ”なリスクはもちろん、顧客情報の流出、不正会計、従業員による横領などの“ミクロ”なリスクを含めて、組織におけるリスクマネジメントの有効性を確保するために、内部監査がいかに関与し得るかについての議論が行われました。

セミナーでは、第1部として、よつ葉乳業株式会社内部監査室の小山健介氏により、「リスク・プライオリティによりそう内部監査」と題する記念講演が行われました。小山氏は、内部監査に期待される役割はステークホルダーそれぞれに異なり、内部監査にはルール等に「より（一層）沿う監査」であるだけでなく、ステークホルダーの期待に「寄り添う監査」であることも求められているとの考えを示されま

した。

第2部では、「内部監査はリスクマネジメントにいかに関与すべきか？」というテーマの下で、パネル討論会が行われました。パネリストは、芹沢清氏（中外製薬株式会社監査部長）、佐藤正志氏（DCMホールディングス株式会社内部監査室内部監査参与）、菊池進一氏（株式会社北海道銀行監査部上席検査役）、並びに第1部の講演者でもある小山氏で、進行係は会計専門職大学院の蟹江章教授が務めました。

芹沢氏は、有効な「リスクマネジメント監査」が出来るように、内部監査部は、①経営者と特にリスクに対する意見交換をすること、②自社のリスクを知ること、③他社との意見交換や勉強会を通じリスクに敏感になることに常日頃から心がけるべきであると指摘されました。佐藤氏は、会社として地震や津波の発生を想定した対策を取っていたため、東日本大震災に際して、7店舗が浸水被害に遭い約20億円に及ぶ商品被害があったとはいえ、人的被害がなく比較的早期に営業を再開できたことを紹介され、企業にとっての最大の資産は従業員、最大の使命は事業継続であり、これらを護るためにリスクマネジメントが不可欠であると強調

されました。菊池氏は、リスクは単独ではなく、幾つものカテゴリーに属するリスクが連鎖して組織にダメージを与えるため、内部監査部門では、①統合的にリスクが管理されているか、②リスクが可視化されているか、③リスクマネジメントが経営戦略と整合しているかについてモニタリングしていくことが必要であるとの見解を示されました。小山氏は、法や規準の改定、経営環境の変化、リスク認識の変遷などは絶えず続くものだが、経営者をはじめとするステークホルダーとのコミュニケーションによって、内部監査に対する期待やニーズをタイムリーに捉える努力が必要であるとの考えを述べられました。

今回のセミナーには、内部監査の実務者や本学の学生など、120名を超える参加者があり、リスクマネジメントを支援するために、内部監査がいかに関与すべきかについて考える良い機会となりました。

会計専門職大学院では、今後もこうした催しを通じて、地域社会における会計・監査実務の発展に貢献していきたいと考えています。

（経済学研究科・経済学部）



小山氏の記念講演に耳をかたむける参加者



パネル討論会の様子

会計専門職大学院主催による「会計プロフェッションとは!？」を開催



熱心に説明を聞く参加者

会計専門職大学院（経済学研究科会計情報専攻）では、6月17日（水）に文系共同講義棟1番教室において、現役の会計プロフェッション（公認会計士・税理士・組織内会計士）の方々より、その仕事と魅力について語っていただきました。この度の説明会は、学生に将来の職業を選択するにあたって会計プロフェッションという道もあるということを知ってもらう趣旨のもとで開催しました。

公認会計士の佐藤 玲氏（本学会計専門職大学院出身）による司会のもと、3人の講師による実体験を踏まえた説明がなされました。公認会計士の大関崇彦氏（本学会計専門職大学院出身）からは、試験の概要、3大業務

（監査業務・税務業務・マネジメントアドバイザー業務）の説明等、税理士の小嶋誠也氏からは、試験の概要、税理士業界の現状、税務業務（納税申告書の作成・移転価格税制・組織再編）の説明等、公認会計士の今和章氏（本学経済学部・会計専門職大学院出身）からは、組織内会計士の現状（職務・人数・求められる能力）の説明等がありました。組織内会計士は今後、企業からのニーズも高くなっていくと予想され、専門家としてあらゆる依頼を受けるチャレンジングな仕事であることを熱く語っていただきました。3人の講師による説明から、公認会計士と税理士には大きな社会的責任があり、経済への貢献も高く、非常に

重要な仕事であることが伝わってきました。いずれの職業も専門家としての継続的な自己研鑽、高い倫理観が求められるやりがいのある仕事と言えます。また、経済がグローバル化している現在では、英語の習得も欠かせないとの助言もありました。

参加者は、他学部を含めて1年生から大学院生まで約40名でした。参加者は熱心にメモを取り、説明会終了後は各講師に多くの質問をしていました。

会計専門職大学院では、今後も同様の趣旨の説明会を随時行っていきます。

（経済学研究科・経済学部）

会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催



説明会の様子

会計専門職大学院（経済学研究科会計情報専攻）では、日本公認会計士協会北海道会の協力を得て、6月25日（木）に、文系共同講義棟2番教室において、公認会計士制度説明会を開催しました。

この説明会では、公認会計士が業務として何をしているのかについて説明し、公認会計士試験制度の最新の情報を提供しています。さらに、最近資格

試験に合格した若手の会計士から、公認会計士としての仕事と試験準備の経験談などが話されました。公認会計士自身が最新の生の情報を提供することで、経済学部ばかりでなく広く本学の学生に公認会計士についての正しい認識をもってもらい、その資格取得を目指す学生に具体的な指針を提供することを目指しています。今年は学部生から大学院生まで16名の参加がありまし

た。

説明会では、竹内弘雄日本公認会計士協会北海道会副会長の司会進行により、まず石若保志日本公認会計士協会北海道会会長による説明会の趣旨説明と、米山祐司会計専門職大学院長による挨拶の後、丸尾大樹日本公認会計士協会北海道会広報委員が公認会計士の業務についてと平成26年度公認会計士試験の状況と採用状況について説明しました。

さらに、最近公認会計士試験に合格して、現在すでに会計士業務に携わっている北見昌寛日本公認会計士協会北海道会会員と川崎博貴日本公認会計士協会北海道会準会員から、ご本人の公認会計士試験の受験体験と現在の実務体験についてのお話がありました。その後、質疑応答を行い、参加学生から熱心な質問を受けました。

（経済学研究科・経済学部）

薬学部でFD研修会を開催

薬学部では6月15日（月）に、薬学部臨床講義室において、薬学部のFD研修の一環として、医療系学部大学教員の薬害に対する理解を深めるため、東京理科大学薬学部講師の佐藤嗣道先生をお招きして研修会を行いました。

佐藤先生は、本学薬学部の卒業生でもあり、また、サリドマイド被害者の立場からも、薬害の歴史と薬物治療のリスク管理について、わかりやすく、かつ情熱を込めてご講演くださいました。ドイツのグリュネンター社が開発した睡眠薬サリドマイドは、妊婦が服用すると催奇形性が生じることを、製薬会社や国が認識して対応するまでの過程を時間軸に沿って具体的に解説

されるとともに、米国での対応との比較、サリドマイド被害者のその後についてもわかりやすく説明をしていただきました。さらに、スモン、薬害エイズ、薬害肝炎など、サリドマイド以降に繰り返された薬害の歴史についても解説いただきました。



講演する佐藤先生

今回の講演は、出席した31名の薬学部教員はもとより、参加した多数の学生にとっても大変貴重なメッセージとなり、FD研修会は成功裏に終了しました。

（薬学研究院・薬学部）



熱心に耳を傾ける参加者

メディア・コミュニケーション研究院公開講座「大衆文化から考える日韓の65年体制」が終了

メディア・コミュニケーション研究院では、平成27年度公開講座「大衆文化から考える日韓の65年体制」を、6月1日から6月22日までの毎週月曜日、全4回にわたり実施しました。

本講座では、日韓国交正常化50周年を迎え、大衆文化の側面から、人々の様々な欲望やまなざし、戦略によって築かれてきた日韓関係について考えました。毎回の講義は、アメリカ、テレビ、東アジア、グローバル、韓流などをキーワードに、政治や経済の水準では見えなかった日韓共通の文化的経験

を浮き彫りにしたうえで、今後の日韓のあり方について議論を行う形で構成されました。

日韓関係や韓国の文化に深い興味をお持ちの受講者の集中度は高く、毎回活発で有意義な時間となりました。最終日には、計43名の受講生が修了証書を手渡され、本講座は盛況のうちに無事に終わることができました。

(国際広報メディア・観光学院、
メディア・コミュニケーション研究院)



授業風景



修了証書の授与

国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院 講演会「『アフリカの奇跡』ルワンダの光と闇:ジェノサイド後の国民統合と和解プロセスをめぐって」が終了

国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院は、公共政策大学院公共政策学研究センターと北大アフリカ研究会、日本アフリカ学会北海道支部との共催により、プロテスタント人文社会学研究所(PIASS)の佐々木和之先生をお招きして、6月26日(金)に情報教育館にて講演会を開催しました。

講演者から、ルワンダの民族紛争の背景とジェノサイドの実態についての説明があり、そして平和学の専門から、被害者と加害者間の赦しと和解プロセスの多面性が体系的に描き出さ

れ、現在行われている国家主導による国民和解の問題点の指摘がありました。

本講演会は一般開放した結果、本学の研究者や学生のみならず、アフリカや開発問題の専門家や市民の方々が40人余りお集まりくださり、講演と質疑応答を通じて普遍的な人道問題について考えました。そして、講演者の活動に感銘し、ルワンダの未来に希望を託して講演会を終えました。

(国際広報メディア・観光学院、
メディア・コミュニケーション研究院)



講演参加者



講演者発表

5 研究所・センター合同で一般公開を開催

創成研究機構、低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所、スラブ・ユーラシア研究センターは、北大祭期間中の6月6日（土）に合同で一般公開を開催しました。多くの方に5部局全てを見て回って欲しいという願いを込めて、今年度も合同シールラリーを行いました。その結果、冷たい風の吹く天候にも関わらず、延べ4,300人以上の方に参加していただきました。

（創成研究機構、低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所、スラブ・ユーラシア研究センター）

創成研究機構

創成研究機構では、6月6日（土）、「創成研究機構 一般公開」を開催しました。創成科学研究棟の公開が3回目となる今年度は、産学・地域協働推進機構の協力で、今年3月に竣工したばかりのFMI国際拠点も公開しました。市民の方々に新しい施設にも足をお運びいただき、本学の新しい取り組みについて知っていただく機会となりました。

当日は、子ども連れのご家族を中心に幅広い年齢層の方が多く訪れ、創成科学研究棟とFMI国際拠点をつなぐペロタクシーの乗車人数は約80名、創成科学研究棟の来場者数は約950名に達しました。

午前中に実施したサイエンス・トーク「乳酸菌で肥満・ウィルス・ガンから体を守る！」では、プロジェクト研究部門の宮崎忠昭特任教授が、免疫力を高める方法や、乳酸菌による健康増進効果などについて、クイズを交えて解説しました。会場のレストランポブ

ラには子ども連れのご家族などが多く集まり、宮崎先生のお話の時折笑顔がこぼれるなど、和やかな雰囲気でも聞き入っていました。

創成科学研究棟1階エントランスホールでは、展示&体験コーナーとして、特定研究部門のゲン チェンピン研究室による「ゲルマックス」、プロジェクト研究部門の宮崎忠昭研究室による「乳酸菌ウォッチ」、研究人材育成推進室（L-Station）の川野 潤研究室による「光と宝石のふしぎ」、笹倉弘理研究室による「量子のふしぎな世界」、JAPEX地球エネルギーフロンティア研究部門による「気体に期待！これからの天然ガス！！」の5つの展示が行われ、また、人獣共通感染症リサーチセンターからも「人獣共通感染症の克服を目指して」というタイトルで出展協力がありました。各展示コーナーの前には朝から終了時間を過ぎるまで絶えずお客様が訪れ、夢中で実験・観察をする子どもたちや、展示担

当者に熱心に質問をする方の姿が見られました。

また、見学ツアーとして、「はやぶさ」のサンプル分析を行った「同位体顕微鏡」見学ツアー、創成研究機構の最先端装置が見られるオープンファシリティ見学ツアーを各3回実施しました。各回とも早くから定員に達するなど、来場者の関心の高さがうかがえました。

来場者アンケートにご協力いただいた方からは、「子どもにも丁寧に教えてくれて素晴らしい」「普段建物ではどのようなことをしているのか興味をもった」などのご感想をいただきました。

また、参加研究者からも「子どもたちの笑顔が活力になった」などの声があり、今後の研究の励みとなったようでした。

創成研究機構では、今後も、市民の皆様と研究者が触れ合える機会の提供に努めて参ります。



展示&体験コーナー



同位体顕微鏡見学ツアー

低温科学研究所

6月6日(土)に低温科学研究所において、一般公開を開催しました。本研究所では、多くの方々に研究所へ来ていただけるよう、3年前より大学祭期間中に一般公開を実施しています。また、5研究所・センターが合同で実施したシールラリーに加えて、大学祭で実施されるスタンプラリーにも参加しました。当日は、やや肌寒く感じる気温のせいか午前中の来場者は少なめでしたが、午後には天候も回復し、結果的には過去4年間で最も多い850名以上の市民の皆様にお越しいただきました。

一般公開では、小さなお子さんでも喜んでいただけるものから高校生以上に焦点を合わせた比較的高度な実験・展示、日常では体験できない-50℃の南極疑似体験まで、10件の企画を実施しました。特に、参加型の実験・体験コーナーは大人気で、お子さんのみならず、お母さんやお父さんにも熱心に取り組んでいただきました。また、展示コーナーでは、最先端の研究について高度な質問をされるシニアの方々もいらっしゃるなど、各ブースは終日大盛況でした。

実験や展示等を通して、多くの方々に低温科学の面白さを知っていただくことはもちろん、私達も一般市民の皆様にご研究の内容を分かりやすくお伝えすることを学ぶ大変貴重な時間を過ごすことが出来ました。「わあ!」と歓声を上げながら食い入るように見つめるお子さんの様子や、それを見守るお母さんやお父さんの笑顔を見ると、本当に一般公開をやった良かった、また喜んでもらえるような企画を考えよう、良い研究を進めようという意欲が湧いてきました。多くの方にお答えいただいたアンケートの結果を踏まえ、来年

度も充実した一般公開ができるよう努力したいと思います。皆様のご協力と、ご来場いただきました市民の皆様、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

度にも合わせてあって、大変面白かったです。来年も来ます」といったご意見をいただきました。会場の玄関前は、終日、シャボン玉に興じる子どもたちで賑わい、研究紹介の枠を超えて、研究所と市民の交流が深まりました。また、その様子は、テレビ北海道の取材を通じて、お茶の間にも届きました。



南極やオホーツクの海水の展示



シャボン玉を使った氷結晶の観察

電子科学研究所

恒例の電子科学研究所一般公開を、6月6日(土)に電子科学研究所棟(北キャンパス総合研究棟5号館)で行いました。やや冷たい風でしたが、天候にも恵まれ、受付での集計で1,200名を超える多くの市民の方々にご来訪いただきました。小さなお子さん連れのお母さんやお父さんの姿が目立ちました。

一般公開では、光・物質・生き物・数理・環境という5つのテーマに関する13の体験型の展示やサイエンス・トーク(市民講座)を行いました。来場者からは「子どもと大人、みんなで楽しめるところがgood!」「皆さん熱意があって良いです。良い研究はやはり楽しんで自由に発想することからなのだろうと思いました!」「難しいこ

とを易しく見せる工夫がすばらしかった。スタッフの方々もとても親切。ウチの子どもココに入れたいです」といった嬉しいご意見をいただきました。午後からのサイエンス・トークでは、「数式をつかって身近な現象を見る」と「エックス線レーザで観た生きた細胞」と題し、研究最前線を紹介しました。大人は勿論、子どもたちとの軽妙なやり取りもあり、多くの方に楽しんでいただきました。

北大祭で賑わう中央キャンパスから多数ご来場いただくべく、ベロタクシー(自転車タクシー)4台を、北18条門から電子科学研究所新棟まで無料運行しました。札幌市教育委員会、北海道教育委員会、北海道私立中学高等学校協会から後援をいただくとともに、小

樽市、江別市、石狩市、恵庭市の教育委員会にご協力いただき、総計500を超える学校にポスターを事前配布しました。北大祭とも連携して、北大祭のパンフレットやウェブにも掲載した他、スタンプラリーにも参加しました。一昨年度から開催している5つの研究所・センターによる一般公開の合同開催については「展示・実演のレベルが子どもに合わせてあって、大変面白かったです。来年も来ます」といったご意見をいただきました。会場の玄関前は、終日、シャボン玉に興じる子どもたちで賑わい、研究紹介の枠を超えて、研究所と市民の交流が深まりました。また、その様子は、テレビ北海道の取材を通じて、お茶の間にも届きました。



「ぐるぐる回してひやそう」実験に取り組む子どもたち



サイエンス・トーク(市民講座)熱中教室

遺伝子病制御研究所

遺伝子病制御研究所は、6月6日（土）に市民向け一般公開を行いました。4回目の開催となる今年は、923名の方々にご来場いただきました。

生命科学の最先端研究を紹介する「サイエンス・トーク」では、3名の先生がそれぞれ「モデル生物-医学・生物学の小さな役者たち」、「血管からがんを制す!」、「ここまでわかった!“病は気から”」というタイトルで講演しました。「ラボツアー」では実際の研究室を見学いただき、各研究室が行っている研究内容について分かりやすく説明しました。「体験学習コーナー」では簡単な実験、顕微鏡観察を行い、小さなお子さんが顕微鏡を熱心に覗いていました。「クイズコーナー」では景品の遺伝子病制御研究所オリジナルボールペンの獲得を目指して、各研究室の研究内容にちなんだ問題に多くの方がチャレンジされ、クイズの内容について研究者に熱心に質問

する中高生もいらっしゃいました。また、今年度より新たに「実験デモ」としてiPS細胞の培養と観察、DNA精製のデモンストレーションを行い、多くの来場者の方に集まっていただき、大変盛り上がりしました。

来場者アンケートにご協力いただいた皆様からは「実験を体験できるコーナーをもっと増やしてほしい」という意見を多くいただきました。研究所のスペースの問題もありますが、市民の皆様の声に応じていけるよう所員一丸となって取り組みたいと考えています。

私たちにとって一般公開は“アウトリーチ活動”のひとつです。多くの市民の皆様に日頃の研究成果を分かりやすく説明することにより、当研究所の役割を広く認識していただけることは喜びであると共に、市民の皆様の声は今後の研究を進めるうえでの活力となります。今後もこのように社会に対し情報を発信し、市民の皆様が生命科学

研究や研究者を身近に感じることができ場を提供することを心がけていきたいと考えています。



実験デモンストレーション



サイエンス・トーク

スラブ・ユーラシア研究センター

スラブ・ユーラシア研究センターは、「もっと楽しく!もっと詳しく!スラブ・ユーラシア展」と題し、6月6日（土）に一般公開を行いました。3度目の開催でしたが、過去最高の330人の方にご来場いただきました。

一般公開では、センタースタッフによる最新の研究成果に関する展示とサイエンス・トークを行い、また、大人から子どもまで楽しめるスラブ・ユーラシア地域の絵本の展示、アニメ上映、スラブ・ユーラシア地域のぬり絵といったコンテンツを用意しました。センターは、本年7月1日で法学部附属スラブ研究所が1955年に創設されて

から60周年を迎えましたが、一般公開では、「スラブ・ユーラシア研究センター60周年のあゆみ」と題し、センターの沿革について資料と解説パネルで示す特別展示も組織しました。

サイエンス・トークは、田畑伸一郎センター長による「油価下落と制裁-ロシア経済は本当に危機なのか?」、地田徹朗助教による「『20世紀最悪の環境破壊』の教訓-アラル海災害から学ぶべきこと」という2本立てでした。サイエンス・トークと研究展示パネルを連動させ、アクチュアルな問題についてわかりやすく視覚と聴覚で示すという手法は来場者の方にも好評

で、サイエンス・トークでは来場者の方から多くの質問が寄せられました。

スタッフ数が少ない中、手探りそして手作りまでこれまで一般公開を組織・運営してきましたが、年々、この行事が定着してきているという確かな手ごたえを感じています。本行事は5研究所・センター合同一般公開の枠組の中で行われましたが、幹事役を務めた電子科学研究所をはじめ、共催した他の研究所に感謝申し上げます。そして、何よりもスラブ・ユーラシア地域に関心をもってご来場いただいた多くの市民の皆様に対し心より御礼申し上げます。



親子で楽しいぬり絵コーナー



サイエンス・トークの様子

環境科学院で北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催

環境科学院では、6月6日（土）・7日（日）の2日間、北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催しました。

今回は、例年に引き続き9回目の開催となりましたが、企画の内容は、環境科学の実験の一部を11のテーマで体験する「環境科学を体験・観察しよう」、環境科学院の学生や教員の活動を紹介する「環境科学院ってどんなところ？」などを行いました。

開催期間中、札幌市内・近郊、道外から親子連れや小・中・高・大学生・一般の方など1,000名近くが訪れ、体験型の研究施設公開を楽しめました。

来場者にアンケート調査を実施したところ、「わかりやすく説明してもらい、科学が好きになった」「色々な実験が楽しかった。子どもも楽しめる企画が多かった」「レベルが高くすばらしい展示だった。来年も参加したい」



科学実験を見学する来場者

などの評価をいただきました。

今後とも、企画の内容に改善を加え、市民の方々に喜ばれる研究施設公開を開催していきたいと考えています。

（環境科学院・地球環境科学研究院）



地表面のデコボコの3次元解析に用いられるドローンの飛翔風景

北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林と大学院生が地元企業と協力して柚子ドリンクを開発

北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林の所在地、和歌山県古座川町の平井地区は、柚子が特産の小さな集落です。ここでは集落の方々が柚子を使った加工品を製造販売する「農事組合法人 古座川ゆず平井の里」を設立し、様々な製品を生産してきました。この度、和歌山研究林で開講した大学院共通科目「南紀熊野の森林から地域を考える－原材料採取から商品開発まで－」に参加した大学院生を中心に5名（文学研究科、国際広報メディア・観光学院、農学院）が集まり、地域貢献活動の一環として、和歌山研究林、「古座川ゆず平井の里」と共に「柚香ちゃんプロジェクト」を立ち上げ、新商品のプロデュースをすることにしました。

半年間をかけてプロデュースしたのは柚子ドリンクで、商品名「平井柚香（ひらいゆか）Yuzu peel & Japanese

honey」です。高級感をもたせるため、和歌山研究林を水源とする軟水を使い、熊野伝統のニホンミツバチの蜂蜜や柚子皮（ピール）を入れるなど、独自の風合いに仕上げました。味については大学院生が主体となってテイスティングを重ね、各素材の配合量を決定しました。商品コンセプトやラベルデザインも大学院生が考案しました。商品名の「平井柚香」は瓶ラベルにデザインされたキャラクターの名前でもあり、古座川町出身の本学大学院生という設定です。この「平井柚香」は北大キャンパス内の生協4店舗で販売中です（160ml、200円）。また、「平井柚香」とハスカップアイスを組み合わせた「柚香ちゃんフロート」（300円）をインフォメーションセンター「エルムの森」のカフェで提供しています。

（北方生物圏フィールド科学センター）



完成した柚子ドリンク「平井柚香」



プロデュースにあたった大学院生

北方生物圏フィールド科学センターで「花・ハーブ苗販売」を開催

北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場では、北大祭の開催に合わせて6月4日(木)・5日(金)に花・ハーブ苗の販売を行いました。

2日間とも小雨が降る生憎の天気でしたが、販売開始時間前には50名ほどの行列ができ、各日1時間のみの販売でしたが、2日間合わせて約500名が来場されました。今年は花(20種類)

とハーブ苗(17種類)の他に野菜苗(22種類)も販売し、売り切れになる苗も多数ありました。来場者からは「毎年楽しみに来ています。いつもの年より種類が多く良かった」「学生スタッフに育て方を丁寧に教えてもらい、とても勉強になりました」という声が聞かれました。

生物生産研究農場では、体験的な農

場実習のカリキュラムの中で、農産物の販売を視野に入れた草花ハーブ苗の育成をプログラムに取り入れていません。農場ではこうして育成した苗を実際に販売することによって、農場の教育・研究活動を知っていただき、学内の方々と交流を進めたいと考えています。

(北方生物圏フィールド科学センター)



販売開始を待つ来場者



販売会場の様子



袋詰めをする学生スタッフ



今年から販売した野菜苗

環境健康科学研究教育センターが研究交流会を開催

6月17日(水)・18日(木)の2日間、台湾のNational Health Research Institutes (NHRI)のShu-Li Wang教授と、環境と子どもの健康に関する研究交流会を開催しました。

Wang教授は、環境疫学、内分泌かく乱物質や有害金属類による、ヒトの健康や発達への影響を専門に研究されています。今回は、東京で開催される環境ホルモン学会でのご講演に先立ち、研究交流のために当センターを訪問されました。

初日は、遠友学舎にて、当センターで行っている「環境と子どもの健康に

関する北海道研究(北海道スタディ)」の概要、またPCBs・ダイオキシン類やフタル酸エステル類、農薬などの環境化学物質の胎児期曝露による、子どもへの健康影響に関する研究成果について報告しました。Wang教授からは、NHRIの紹介と、Taiwan Maternal and Infant Cohort Study(TMICS:台湾の母と乳幼児のコホートスタディ)の成果についてご発表いただきました。TMICSは、環境化学物質による子どもへの内分泌かく乱作用や神経発達、免疫、遺伝的变化などの影響を調べる調査研究で、平成14年より当センター

で実施をしている北海道スタディの調査継続にあたり、非常に役に立つ貴重な情報を提供していただきました。

また、この日は北海道立衛生研究所主幹である小島弘幸氏も参加され、活発な意見交換が行われました。



NHRIについて紹介するWang教授

2日目は、ファカルティハウス「エンレイソウ」にて、ラウンドテーブルディスカッション形式で、研究協力の可能性を探るミーティングを行いました。調査方法や化学物質の測定、調査参加者のフォローアップ維持の工夫など、互いの調査研究の具体的な情報を交換しました。

短い時間でしたが、次世代の子どもにとって、より良い環境作りに貢献するという共通の目的に向かい、NHRIとの研究協力や情報交換を行う有意義な機会となりました。今後の研究発展に繋がりたいと考えています。

(環境健康科学研究教育センター)



エンレイソウ会議室にて、ラウンドテーブルディスカッションを終えて(前列右がWang教授)

附属図書館新渡戸カレッジ応援イベント「Study in Europe !」を開催

6月15日(月)午後6時30分から、増築された北図書館西棟3階グローバルフロアにおいて、附属図書館新渡戸カレッジ応援イベント「Study in Europe !」を開催しました。

本イベントは、新渡戸カレッジ生をはじめとする留学に興味を持つ学生を対象に、本学の国際交流協定校の紹介や留学体験談を通して、ヨーロッパ留学への興味を喚起することを目的とし、国際本部の共催、新渡戸カレッジの後援を得て開催したものです。

当日は、学生や教職員、市民の方を合わせて51名の参加があり、終始和やかな雰囲気でした。

第1部では、本学フィンランド・ヘ

ルシンキオフィスのテロ・サロマ副所長、理学研究院国際化支援室(OIAS)の河村 裕室長、文学研究科国際交流室のミシェル・ラフェイ室長、フィンランド3大学合同北海道事務所のユハ・トゥイスク氏の4名の講師から、イギリス、ドイツ、フィンランドといった国々の国際交流協定校や、それぞれの国の文化やキャンパスライフ、留学制度、奨学金プログラムなどの紹介を英語で講演していただきました。

第2部では、約1年間のフランス留学経験を持つ末森晴賀氏(文学研究科博士課程1年生)から留学を通して得たことなどについて報告がありました。

第3部では、講師ごとに個別相談ブースを設け、日頃感じている留学に関する疑問について相談を受け付けました。

午後8時に閉会しましたが、その後も熱心に話し込む講師や参加者の姿が見受けられました。

アンケートの回答では、「各国の留学制度などを知ることができて良かった」「先輩の声を聞くことで留学が具体的なものとしてイメージできた」「英語での講演というのが面白かった」といった声が寄せられました。

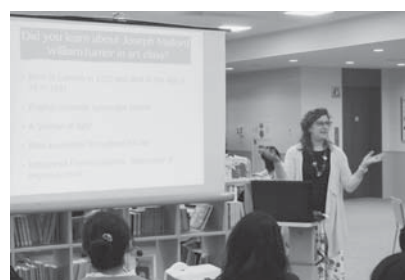
(附属図書館)



サロマ副所長の講演



河村室長の講演



ラフェイ室長の講演



ユハ氏の講演



末森氏の講演



個別相談の様子

附属図書館，総合化学院で博士論文のインターネット公表に関する説明会を実施

附属図書館では、6月16日（火）・18日（木）の2回、理学部大講堂・工学部オープンホールにおいて、総合化学院主催、工学研究院・理学研究院共催による「総合化学院FD研修：博士論文のインターネット公表について」を実施しました。

説明会には、教員及び大学院生を中心に延べ114人が参加し、総合化学院FD委員会委員長の高木 睦教授の挨拶の後、附属図書館の北海道大学学術

成果コレクション（HUSCAP）担当者から、学位規則改正に伴う博士論文のインターネット公表の概要と、公表における様々な注意点についての説明がありました。

また、あわせて附属図書館で開設している、「博士論文のインターネット公表」相談ホットラインの紹介がありました。

著作権に関する説明、特に既に学術雑誌で受理・出版された論文を博士論

文に含める場合の権利確認については、出版社の契約書の読み方まで踏み込んだ説明が行われました。説明後には、質問なども多く寄せられ、博士論文のインターネット公表に関する関心の高さがうかがえました。

また、アンケートの回答では、9割以上の方から「役に立った」という感想が寄せられました。

（附属図書館）



総合化学院FD委員会委員長の高木教授の挨拶



説明会の様子

リーディングプログラム大学院生が全国博士課程教育 リーディングプログラム学生会議を開催



フロンティア応用科学研究棟「鈴木章ホール」での記念撮影

6月20日（土）・21日（日）、第3回全国博士課程教育リーディングプログラム学生会議がフロンティア応用科学研究棟にて開催されました。この会議はリーディングプログラムの学生が自主的に企画・運営するもので、全国持ち回りでを行っています。今年には本学で実施している「物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム※」と「One Healthに貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム」の大学院生40名で、Ambitiousリーダー育成プログラムのプログラム生である戸口 侑君を実行委員長とする学生会議実行委員会を結成し、学生会議を開催しました。

会議には全国の27リーディングプログラムより、27カ国からの留学生を含むリーディング生112名が参加しました。また、国内外で活躍する産官学のゲスト10名も議論に加わり、運営チーム、支援教員等を含め170名超が活発な議論

を交わしました。会議は両日ともに特別講義でスタートし、初日には本学OBの毛利 衛氏（日本科学未来館館長）が未知への挑戦の重要性を、2日目には科学ジャーナリストのJean-Marc Fleury氏（世界科学ジャーナリスト連盟相談役）がコミュニケーション戦略について熱く語りました。全国のリーディング生が全員参加するワークショップのパートでは、昨年度第2回学生会議での「博士人材は社会から批判的思考力・問題解決能力が求められている」という結論を受けたグループディスカッションを行いました。「Doctors, Be ambitious!-アイデア創出型ワークショップ 現代社会が抱える課題の解決を目指して-」と銘打ち、農業や紙の大量消費など、現代社会が抱える6つの問題をテーマに議論しました。全て英語で行われた議論はどのテーブルでも白熱し、まとめの発表会では各グループが提案する解決策への意見も続

出するなど、閉会予定時刻ぎりぎりまで大いに盛り上がりました。

学生会議実行委員会は昨年11月から8ヶ月にわたってミーティングを積み重ねたほか、積極的な議論を促すため、ファシリテーション講習でスキル習得に励むなど準備を進めてきました。本会議により磨かれたリーディング生の問題・課題解決能力が、今後の研究や社会での活躍につながることでしょう。

※「物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム」

総合化学院総合化学専攻、生命科学院生命科学専攻、環境科学院環境物質科学専攻、理学院数学専攻、工学院量子理工学専攻に所属する大学院生を対象とする5年一貫の大学院教育プログラム。

（総合化学院）



特別講義を行う毛利氏



リーディング生の質問に答えるFleury氏



ワークショップの様子

■お知らせ

「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成26年度）」の概要について

独立行政法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表に関する政府決定等及び国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）に基づき、本学の役員の報酬等、職員の給与水準及び総人件費について、平成26年度分の概要をお知らせします。

平成26年度における役員の報酬等の支給状況

	役員10人（法人の長、理事（7人）、監事（2人））
年間報酬等の総額	146,878千円

平成26年度における職員の給与水準

	比較対象人員数（注）	平均年齢	平成26年度 年間給与額（平均）
事務・技術職員	931人	41.0歳	5,455千円
教育職員（大学教員）	1,484人	47.3歳	8,404千円
医療職員（病院看護師）	440人	38.4歳	5,163千円

注）「比較対象人員数」は、平成27年4月1日現在、在職している常勤職員（平成26年度途中の採用者及び異動者等を除く。）である。

総人件費

区 分	平成26年度	平成25年度	比較増△減	
給与、報酬等支給総額（A）（注1）	千円 28,979,637	千円 27,214,299	千円 1,765,337	% 6.5
退職手当支給額（B）（注1）	千円 1,879,983	千円 2,717,416	千円 △ 837,432	% △ 30.8
非常勤役員等給与（C）（注2）	千円 12,446,545	千円 12,186,658	千円 259,886	% 2.1
福利厚生費（D）（注3）	千円 5,562,214	千円 5,267,860	千円 294,353	% 5.6
最広義人件費（A+B+C+D）	千円 48,868,380	千円 47,386,234	千円 1,482,145	% 3.1

注1）「給与、報酬等支給総額」及び「退職手当支給額」は、常勤役員及び常勤職員に支払われた報酬（給与）、賞与、その他の手当の総額並びに退職手当の総額である。

注2）「非常勤役員等給与」は、非常勤役員及び非常勤職員等に支払われた給与及び退職手当の総額である。

注3）「福利厚生費」は、全ての役員及び職員（非常勤職員等を含む。）に係る法定福利費と法定外福利費の総額である。

※本概要の詳細については、本学ホームページ（広報・公開、情報公開、法令等に基づく公表事項、その他公表事項）に掲載しています。（<http://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/other/>）

（総務企画部人事課）

被扶養者の要件の確認

「被扶養者の要件の確認」を本年9月中に行います。

ついては、認定されている被扶養者の認定条件に必要な添付書類を9月上旬に確認が完了するよう早期に手配し、被扶養者申告書とともに所属している部局等の共済事務担当係へ提出願います。

なお、被扶養者申告書に現在使用中の組合員証等の添付は不要です。

また、国家公務員共済組合連合会より送付される「ねんきん定期便」が届くよう、被扶養者申告書の住所を確認し、変更がある場合は、速やかに届出ください。

おって、「被扶養者の要件の確認」の詳細は各学部等の共済事務担当係にお問い合わせください。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について

本年度も、夏季期間における連続休暇取得の奨励及び省エネルギー対策のため、工学系建物の閉鎖を下記のとおり実施しますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

記

1. 実施期間・体制について

期 間：8月12日（水）～14日（金）

体 制：原則として休日の期間と同様の体制とします。

2. 郵便物・宅配便について

郵便物：局留となりますので、受領及び発送等の取り扱いは、8月17日（月）からとなります。

宅配便：原則として警務員室にて受理・保管となります。

3. 緊急時の体制について

事故時の対応は、原則として「夜間、休日等における緊急連絡体制」によります。

詳細については、工学系事務部総務課（TEL.011-706-6115）までお問い合わせください。

(工学研究院, 情報科学研究科, 量子集積エレクトロニクス研究センター)

博士学位記授与

6月30日(火)に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は21人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は4人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士(法学)	キョウ 姜 レン 連 コウ 甲		音楽著作権管理事業における独占問題と独占禁止法の適用－独占的狀態規制の適用可能性に関する研究－ 主査：准教授 中川 晶比兒
	コ 顧 ケン 昕		著作権間接侵害における帰責方策の構成－日中比較の視点から 主査：教授 田村 善之
博士(医学)	おお にし こう すけ 大 西 浩 介		Efficiency of Local Stroke Center Network in Northern District of Japan: A Survey Under the Auspices of Department of Health and Welfare, Hokkaido Prefectural Government. (北日本の地域脳卒中センターネットワークの効率性：北海道庁保健福祉部後援の調査) 主査：教授 丸藤 哲
	き むら しょう こう 木 村 鐘 康		肝移植後早期においてNK細胞によるアロ認識が好中球浸潤の増幅をもたらす肝虚血再灌流障害を増悪させる 主査：教授 坂本 直哉
	ざい つ まさ あき 財 津 雅 昭		Studies of efficacies of 3-[(dodecylthiocarbonyl) methyl] glutarimide on graft arterial disease in mice. (マウス移植後動脈硬化症モデルにおける3-[(dodecylthiocarbonyl) methyl] glutarimideの効果およびその機序の検討) 主査：教授 村上 正晃
	しお かわ かな え 塩 川 愛 絵		Development of an enzyme-linked immunosorbent assay system based on recombinant leptospiral outer membrane protein LipL32 expressed by <i>Escherichia coli</i> and <i>Pichia pastoris</i> for <i>Leptospira</i> infection in rodents. (大腸菌およびメタノール資化酵母により発現させた組換えレプトスピラ外膜蛋白LipL32を用いたげっ歯類レプトスピラ感染症診断ELISA法の開発) 主査：教授 瀬谷 司
	たか はし しょうじろう 高 橋 正二郎		Survivin 2Bがん関連抗原を用いた免疫療法のマウス評価系モデルに関する研究 主査：教授 笠原 正典
	もり うち れい ね 守 内 玲 寧		Analysis of correlation between <i>in vivo</i> deposition of IgE autoantibodies in lesional skin and disease course in bullous pemphigoid. (水疱性類天疱瘡における病変皮膚へのIgE自己抗体の沈着と病勢、治療経過の相関に関する解析) 主査：教授 渥美 達也
	よし だ あつ し 吉 田 篤 司		Studies on the roles of the primate globus pallidus external segment in voluntary eye movements (随意性眼球運動における霊長類淡蒼球外節の役割に関する研究) 主査：教授 石田 晋
博士(歯学)	ふく ざわ なお ゆき 福 澤 尚 幸		1ステップ型接着システムによる臨床的スミヤー層の除去能とその接着性能 主査：教授 佐野 英彦
博士(情報科学)	ガブリエル Gabriel ゴンザレス Gonzalez		A study of the genetic divergence of <i>Human mastadenovirus D</i> via comparative genomic analyses (比較ゲノム解析によるヒトアデノウイルスD種の遺伝的多様性に関する研究) 主査：教授 渡邊 日出海
	ど い むね ひろ 土 居 意 弘		Image-Value ペアに基づく遺伝的プログラミングを用いた画像処理プログラムの自動生成に関する研究 主査：教授 山本 強

博士 (理学)	ミリヤナ Mirjana ミリエヴィッチ Milijević	CR submanifolds in holomorphic statistical manifolds (正則統計多様体のCR部分多様体論) 主査：准教授 古畑 仁		
博士 (生命科学)	いし はら り の 石 原 利 乃	アディポカイン産生・分泌に関わる腸上皮細胞-脂肪細胞連関の生理学的解析 主査：准教授 園山 慶		
博士 (国際広報メディア)	ソ 蘇	ブン 文	ネット・クチコミが消費者行動に及ぼす影響のメカニズム-中国の旅行サービスに関する実証的研究- 主査：教授 渡邊 浩平	
博士 (工学)	とく なが とう こ 徳 永 透 子	Development and Characterization of Al-coated Mg Alloy (Mg/Alクラッド材の開発および特性調査に関する研究) 主査：教授 松浦 清隆		
	ゴン 龔	ミア 加	ミン 明	Numerical investigation of the free energy based lattice Boltzmann method for two-phase flow with large density ratio (自由エネルギーに基づいた大密度比二相流体ラティス・ボルツマン法解析に関する数値研究) 主査：教授 大島 伸行
	いま おか こう いち 今 岡 広 一		弾性支持円柱構造物の渦励振解析と振動制御に関する研究 主査：教授 小林 幸徳	
	ワン 王	イン 穎	ナン 楠	中国「新農村建設」による集落再編と居住環境の質的改善に関する研究 主査：教授 森 傑
博士 (総合化学)	アリ モハメド Ali Mohammed シャバン Shaaban モスタファ Mostafa	A Study on Precoating-induced Protective α -Al ₂ O ₃ Scale Formation on Ni-Al Alloy in the High Temperature Oxidation (NiAl合金上へのプレコート導入による耐高温酸化性 α -Al ₂ O ₃ スケールの生成に関する研究) 主査：教授 島田 敏宏		
博士 (理学)	すず き しょう た 鈴木 詔 太	分裂酵母におけるH3K36メチル化酵素Set2依存性のサイレンシング機構に関する研究 主査：教授 坂口 和靖		

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士 (環境科学)	ヤックアラ Yakkala ヤグネッシュ Yagnesh ラガヴァ Raghava		Numerical study of a thick snow band along the Okhotsk Sea coast of Hokkaido Island, Japan (北海道オホーツク海沿岸に出現する降雪帯の数値的研究) 主査：教授 三寺 史夫
博士 (理学)	たち もり 日 月	ゆたか 裕	Network analysis of medical knowledge to investigate the structure of medical service: Toward a mathematical approach to medical service. (医療構造を調べるための医療知識のネットワーク分析：医療に対する数学的アプローチを目指して) 主査：教授 津田 一郎
博士 (農学)	ひ やま 檜 山	りょう 亮	北海道におけるシイタケ廃菌床を原料としたバイオエタノール製造に関する研究 主査：教授 浦木 康光
博士 (保健科学)	ロジートシュレスト Rojeet Shrestha		Analytical approach for the measurement of oxidized lipids and medium-chain fatty acids: Emerging lipids in human health and nutrition (酸化脂質と中鎖脂肪酸の測定のための分析的アプローチ：ヒトの健康と栄養に関する新規脂質) 主査：教授 齋藤 健

■同窓会との交流

平成27年度北海道大学連合同窓会評議員会・幹事会合同会議の開催

6月16日（火）、札幌市内のホテルで、北海道大学連合同窓会評議員会・幹事会合同会議が開催されました。

当日は、石山 喬会長（日本軽金属ホールディングス株式会社代表取締役社長）をはじめとする役員、評議員・幹事である各学部等同窓会・地区同窓会の代表、本学からは三上 隆理事・副学長をはじめとする役員計68名が出席しました。また、海外からは台湾・中国（上海）・インドネシアの代

表が参加しました。

会議の前、連合同窓会に加入の申出のあった秋田県同窓会、上海北大エルクム会、インドネシア同窓会の紹介などがあり、学部等同窓会19、地区同窓会33、合計52団体で構成される組織になった旨報告がありました。

今回の会議では、各学部等同窓会・地区同窓会の活動状況等について報告があり、平成26年度事業・決算報告及び平成27年度の事業計画について、審

議が行われました。

なお、本学からは本学の近況等について報告を行いました。

合同会議終了後に行われた懇談会では、参加者同士の意見交換が活発に行われ、最後は全員で「都ぞ弥生」を合唱し、盛況のうちに終了しました。

（総務企画部広報課）



石山会長（右から2人目）の挨拶



合同会議の様子



本学の近況を説明する三上理事・副学長（右から2人目）



全員での「都ぞ弥生」合唱

レクリエーション

平成27年度学内職員バドミントン大会（個人戦）の開催

平成27年度学内職員バドミントン大会（個人戦）を、6月15日（月）から6月25日（木）まで第2体育館において開催し、総勢66名が参加し、熱戦が繰り広げられました。

試合結果は次のとおりです。

（職員バドミントン部）

平成27年度学内職員バドミントン大会（個人戦） 対戦表

◆ Aクラス

				1	2	3	4	順位	
				小田桐 誠	西村 匡史	岩部 順	永井 潤		
NO	氏名	所属	HC	飯田 純二	西村 信毅	山岸 広樹	本山 楓人		
1	小田桐 誠	工学部	3	\	○	×	×	3位	
	飯田 純二	工学部			不戦勝	17-21	15-21		
2	西村 匡史	獣医学部	6		×	\	×	×	4位
	西村 信毅	獣医学部			不戦敗		17-21	20-22	
3	岩部 順	理学部	6	○	○		\	○	1位
	山岸 広樹	財務部主計課		21-17	21-17			21-16	
4	永井 潤	財務部調達課	10	○	○	×		2位	
	本山 楓人	財務部調達課		21-15	22-20	16-21			

※HC（ハンディキャップ）は、対戦相手ペアに与えるポイントです。

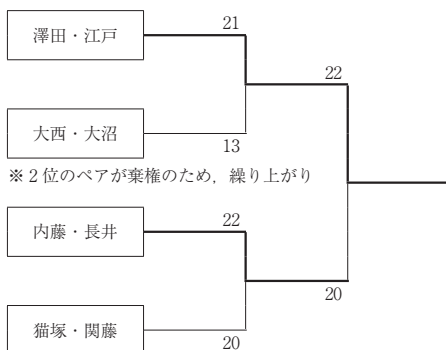
◆ Bクラス

Aブロック

				1	2	3	順位
				澤田 浩一	内藤 輝章	吉本 幸矩	
NO	氏名	所属		江戸 将人	長井 一真	横山 隆宏	
1	澤田 浩一	経済学部	\	\	○	○	1位
	江戸 将人	病院			28-26	21-14	
2	内藤 輝章	病院総務課		×	\	○	2位
	長井 一真	病院総務課		26-28		25-23	
3	吉本 幸矩	財務部主計課	×	×		\	3位
	横山 隆宏	財務部主計課	14-21	23-25			

Bブロック

				1	2	3	順位
				猫塚 和美	海藤 和俊	大西なおみ	
NO	氏名	所属		関藤 元太	越前 圭伍	大沼 美雪	
1	猫塚 和美	財務部資産運用管理課	\	\	○	○	1位
	関藤 元太	財務部経理課			21-15	21-15	
2	海藤 和俊	財務部主計課		×	\	○	2位
	越前 圭伍	財務部主計課		19-21		21-16	
3	大西なおみ	人獣共通感染症リサーチセンター	×	×		\	3位
	大沼 美雪	人獣共通感染症リサーチセンター	15-21	16-21			



◆Cクラス

Aブロック

			1	2	3	順位
			小田切和博	近藤 未央	近藤 哲仁	
NO	氏名	所属	越智 亨	波多野訓広	大場 諒平	
1	小田切和博	財務部経理課		×	○	1位
	越智 亨	財務部経理課		19-21	21-15	
2	近藤 未央	学務部教育推進課	○		×	2位
	波多野訓広	学務部教育推進課	21-19		18-21	
3	近藤 哲仁	北方圏フィールド科学センター	×	○		3位
	大場 諒平	北方圏フィールド科学センター	15-21	21-18		

Bブロック

			1	2	3	順位
			柿崎 有紀	木村奈緒美	藤田 理	
NO	氏名	所属	高原 周作	坂本ゆう子	宮本大悠斗	
1	柿崎 有紀	財務部主計課		○	○	1位
	高原 周作	財務部主計課		21-16	21-14	
2	木村奈緒美	人獣共通感染症リサーチセンター	×		○	2位
	坂本ゆう子	獣医学部	16-21		21-16	
3	藤田 理	総務企画部人事課	×	×		3位
	宮本大悠斗	総務企画部人事課厚生労務室	14-21	16-21		

Cブロック

			1	2	3	順位
			谷口 雄郎	中塚 沙織	荒木 一平	
NO	氏名	所属	山田 祐輔	林 健太郎	田村 宗平	
1	谷口 雄郎	財務部資産運用管理課		×	○	2位
	山田 祐輔	財務部資産運用管理課		12-21	21-10	
2	中塚 沙織	学務部学生支援課	○		○	1位
	林 健太郎	学務部学生支援課	21-12		21-11	
3	荒木 一平	法学部	×	×		3位
	田村 宗平	法学部	10-21	11-21		

Dブロック

			1	2	3	順位
			福島 卓哉	近藤 俊治	小幡 宣和	
NO	氏名	所属	福井 祐一	西村 孔佑	平野 亮	
1	福島 卓哉	財務部資産運用管理課		×	○	2位
	福井 祐一	財務部資産運用管理課		17-21	21-15	
2	近藤 俊治	学務部教育推進課	○		○	1位
	西村 孔佑	総務企画部人事課	21-17		21-11	
3	小幡 宣和	法学部	×	×		3位
	平野 亮	経済学部	15-21	11-21		

Eブロック

			1	2	3	順位
			佐々木徹也	坂田 諒	原田 由美	
NO	氏名	所属	荒井 菜々	堀 愛菜	稲垣 智彦	
1	佐々木徹也	学務部学生支援課		×	×	3位
	荒井 菜々	学務部学生支援課		14-21	20-22	
2	坂田 諒	工学部	○		○	1位
	堀 愛菜	工学部	21-14		21-19	
3	原田 由美	総務企画部総務課安全衛生室	○	×		2位
	稲垣 智彦	総務企画部総務課安全衛生室	22-20	19-21		

Fブロック

			1	2	3	順位
			松岡 裕子	伊達龍太郎	小名木明宏	
NO	氏名	所属	清水 優那	鈴木 里奈	杉本 早苗	
1	松岡 裕子	財務部主計課		×	○	2位
	清水 優那	財務部主計課		10-21	21-8	
2	伊達龍太郎	病院総務課	○		○	1位
	鈴木 里奈	病院総務課	21-10		21-17	
3	小名木明宏	法学部	×	×		3位
	杉本 早苗	法学部	8-21	17-21		



入賞された皆さん

◆Dクラス

			1	2	3	4	5	順位
			小笠原麻美	鈴木 晴香	長谷川桃子	橋場 典子	鈴木 千穂	
NO	氏名	所属	増田 小春	渡部美奈子	野入由起子	李 妍淑	上田しのぶ	
1	小笠原麻美	学務部入試課		×	×	○	○	3位
	増田 小春	学務部学務企画課		9-21	16-21	不戦勝	21-9	
2	鈴木 晴香	獣医学部	○		○	○	○	1位
	渡部美奈子	獣医学部	21-9		21-12	不戦勝	21-14	
3	長谷川桃子	法学部	○	×		○	○	2位
	野入由起子	法学部	21-16	12-21		不戦勝	21-12	
4	橋場 典子	法学部	×	×	×		-	5位
	李 妍淑	法学部	不戦敗	不戦敗	不戦敗		試合不成立	
5	鈴木 千穂	学務部学務企画課	×	×	×	-		4位
	上田しのぶ	学務部教育推進課	9-21	14-21	12-21	試合不成立		

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成27年6月8日）

- 議案・第2期中期目標期間評価の実施体制等について
- ・平成27年度老朽化防止対策経費事業について
 - ・平成27年度部局評価に基づく資源の再配分事業について
- 協議事項・第3期中期目標・中期計画（案）について
- ・平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
 - ・大学機関別認証評価に係る自己評価書について
 - ・総合IR室の設置について
 - ・平成28年度概算要求事項について
 - ・平成26年度決算について
 - ・諸規則の制定及び一部改正について
- 報告事項・ディスティングイッシュトプロフェッサーの称号付与について
- ・平成26年度職員定期健康診断受診率について
 - ・平成26年度冬季の節電対策の結果について
 - ・平成27年度夏季の節電対策について
 - ・キャンパス・クリーン・デーの実施結果について
 - ・平成26年度病院収支の概要について
 - ・平成27年度運営費交付金の追加配分について
-

経営協議会（平成27年6月10日）

- 議題・平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
- ・大学機関別認証評価に係る自己評価書について
 - ・第3期中期目標・中期計画（案）について
 - ・平成26年度決算について
 - ・平成28年度概算要求事項について
- 報告事項・総合IR室の設置について
- ・北極域研究センターについて
 - ・「北大フロンティア基金」の寄附受入状況について
 - ・役職員の給与について
-

役員会（平成27年6月17日）

- 議案・平成26年度決算について
- ・平成28年度概算要求（施設整備事業）提出について
 - ・クロスアポイントメントの適用について
 - ・平成27年度教育関係共同利用拠点の認定申請について
-

教育研究評議会（平成27年6月17日）

- 議題・平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
- ・大学機関別認証評価に係る自己評価書について
 - ・総合IR室の設置について
 - ・第3期中期目標・中期計画（案）について
 - ・平成28年度概算要求事項について
 - ・諸規則の制定及び一部改正について
- 報告事項・経営協議会の学外委員について
- ・第2期中期目標期間評価の実施体制等について
 - ・北海道大学緑のピアガーデン2015の開催について
 - ・ディスティングイッシュトプロフェッサーの称号付与について
-

役員会（平成27年6月29日）

- 議案・第3期中期目標・中期計画（案）について
- ・平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
 - ・大学機関別認証評価に係る自己評価書について
 - ・総合IR室の設置について
 - ・諸規則の制定及び一部改正について
 - ・重要な財産を譲渡する計画の一部変更について
- 報告事項・理事及び副学長の職務分担について
- ・役職員の報酬・給与等の水準の公表について
-

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程

(平成27年6月18日海大達第202号)

高等教育推進機構に置かれている高等教育研修センターについて、学校教育法施行規則第143条の2第1項の規定に基づき、他の大学等の利用に供することができることとすること並びに研究員及び研究生を高等教育研究部以外の組織で受入可能とすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション共同利用規程の一部を改正する規程

(平成27年6月18日海大達第203号)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション共同利用協議会規程の一部を改正する規程

(平成27年6月18日海大達第204号)

本学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション洞爺臨湖実験所、白尻水産実験所、七飯淡水実験所及び忍路臨海実験所共同利用協議会の組織を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程

(平成27年6月29日海大達第205号)

事務局（本館）耐震改修・改築工事により財務部経理課が庁舎外に仮移転し、仮移転中は同課が行っていた施設使用料の現金収納業務を財務部資産運用管理課において行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(平成27年7月1日海大達第206号)

国立大学法人北海道大学総合IR室規程

(平成27年7月1日海大達第207号)

国立大学法人北海道大学内部監査規程等の一部を改正する規程

(平成27年7月1日海大達第208号)

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

(平成27年7月1日海大達第209号)

国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程

(平成27年7月1日海大達第210号)

国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程

(平成27年7月1日海大達第211号)

国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程

(平成27年7月1日海大達第212号)

国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程

(平成27年7月1日海大達第213号)

国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程

(平成27年7月1日海大達第214号)

国立大学法人北海道大学寄附金規則の一部を改正する規則

(平成27年7月1日海大達第215号)

本年7月1日付けで、本学に総合IR室を設置することに伴い、所要の改正及び定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(平成27年7月1日海大達第216号)

本学のオープンファシリティについて、設備の追加及び削除並びに使用料の変更を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構共用機器管理センター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

(平成27年7月1日海大達第217号)

創成研究機構共用機器管理センターにおいて、材料分析又は加工に使用する設備の追加を行うこと並びに分子構造分析の項目、分析料及び加工等料の変更を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学大学連携研究設備ネットワーク設備利用規程の一部を改正する規程

(平成27年7月1日海大達第218号)

大学連携研究設備ネットワークによる設備相互利用と共同研究の促進事業実施規約の規定による委託に基づく測定を行わないこととすること、本学が相互利用に供する設備の削除を行うこと及び利用料金を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学ナノテクノロジープラットフォーム事業による設備利用規程の一部を改正する規程

(平成27年7月1日海大達第219号)

本学が行うナノテクノロジープラットフォーム事業に使用する設備の追加、変更及び削除を行うこと並びに基本料、利用料及び技術代行料の変更を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学病院規程の一部を改正する規程

(平成27年7月1日海大達第220号)

北海道大学病院の目的を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

■ 研修

平成27年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

開催期間：平成27年6月9日～11日

開催場所：北海道大学学術交流会館第1会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の中堅職員としての立場と責務を自覚させるとともに、職務に対する知識を深め、企画力及び問題解決能力の向上を図ることを目的とする。



特別講話
(村田直樹理事・事務局長)



講義「メンタルヘルス」
(朝倉 聡医学研究科准教授, 産業医)



演習・グループワーク等

(総務企画部人事課)

表敬訪問

国内

年月日	来訪者
27.6.30	株式会社日本政策投資銀行 常務執行役員 関根 久修 氏, 北海道支店長 松嶋 一重 氏
27.7.8	大地みらい信用金庫 理事長 遠藤 修一 氏, 地域みらい創造センター次長/札幌オフィス長 倉又 一成 氏



株式会社日本政策投資銀行 常務執行役員
関根 久修 氏 (右から2人目),
北海道支店長 松嶋 一重 氏 (左から2人目)



大地みらい信用金庫 理事長 遠藤 修一 氏
(右側), 地域みらい創造センター次長/
札幌オフィス長 倉又 一成 氏 (左側)

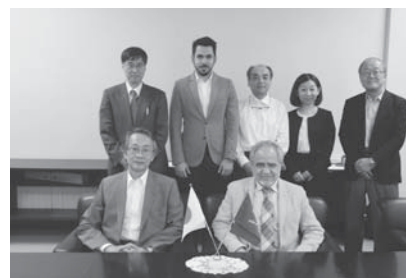
(総務企画部広報課)

海外

年月日	来訪者	来訪目的
27.6.9	駐札幌中国総領事館 孫 振勇 総領事	就任挨拶
27.6.15	キング・ファハド石油鉱物資源大学 (サウジアラビア) Sahel N. Abduljauwad 副学長	両大学の交流に関する懇談
27.7.2	駐日イスラエル大使館 Ruth Kahanoff 特命全権大使	両国の交流に関する懇談
27.7.3	パデュー大学 (アメリカ) Dallas Kenny 副学長補佐	両大学の交流に関する懇談



駐札幌中国総領事館 孫 振勇 総領事 (中央)



キング・ファハド石油鉱物資源大学 (サウジアラビア)
Sahel N. Abduljauwad 副学長 (前列右)



駐日イスラエル大使館
Ruth Kahanoff 特命全権大使 (前列左)



パデュー大学 (アメリカ)
Dallas Kenny 副学長補佐 (前列左)

(国際本部国際連携課)

■人事

平成27年6月5日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 (辞職)	福 田 朋 子	北海道大学病院看護部看護師

平成27年6月10日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【経営協議会委員】 (期間：平成29年6月9日まで)	辻 泰 弘	北海道副知事

平成27年6月18日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 北海道大学病院診療支援部臨床検査技師	熊 谷 菜 海	採用

平成27年6月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	谷 野 之 紀	北海道大学病院助教
【課長・事務長・室長】 (任期満了)	上 田 大 吾	財務部主計課財務管理室長
【係員】 (辞職)	遠 藤 真 好	研究推進部研究支援課
【技術職員等】 (辞職)	平 間 絵 理 佐々木 なな子 新 川 真実子 千 葉 桃 子 長 尾 加菜江 松 村 朋 子	大学院医学研究科附属動物実験施設 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部助産師
【嘱託職員】 (辞職)	若 松 智恵子	北海道大学病院医療支援課

平成27年7月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【部局長・施設長等】 総合IR室長 (期間：平成29年3月31日まで)	新 田 孝 彦	理事 (副学長)
【教授】 大学院法学研究科教授 大学院公共政策学連携研究部教授 大学院農学研究院教授 電子科学研究所教授	米 田 雅 宏 高 野 伸 栄 小 泉 章 夫 雲林院 宏	大学院法学研究科准教授 大学院公共政策学連携研究部准教授 大学院農学研究院准教授 採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
情報環境推進本部情報推進課係長	築 田 和 人	施設部施設企画課係長
国際本部国際交流課係長	柏 原 麻 美	北海道大学病院経営企画課係長
北キャンパス合同事務部係長 (出向復帰)	長 南 敏 幸	施設部施設企画課係長
総務企画部企画課係長	伊 藤 広 雄	小樽商科大学企画戦略課係長
財務部資産運用管理課係長	原 田 匡 人	帯広畜産大学経営管理部財務課係長
法学研究科・法学部係長 (出向)	脇 坂 和 典	北見工業大学財務課係長
小樽商科大学企画戦略課係長	高 原 周 作	財務部主計課主任
帯広畜産大学経営管理部財務課係長	長谷川 尚 雄	財務部資産運用管理課主任
北見工業大学財務課係長	氏 家 智 弘	北海道大学病院経営企画課主任
【主任】		
総務企画部総務課主任	赤 潤 崇 弘	研究推進部研究振興企画課主任
財務部経理課主任	白 川 万 愉	低温科学研究所主任
学務部学生支援課主任	脇 坂 恭 匡	監査室主任
医学系事務部会計課主任	高 梨 信 人	北海道大学病院管理課主任
医学系事務部会計課主任	水 野 嘉 永	施設部施設企画課主任
医学系事務部保健科学研究所事務課主任	重 金 千 賀 子	北キャンパス合同事務部主任
獣医学研究科・獣医学部主任	窪 寺 倫 子	医学系事務部会計課主任
理学・生命科学事務部事務課主任	吉 川 幸 児	北海道大学病院経営企画課主任
農学事務部主任	渡 辺 香 織	低温科学研究所主任
工学系事務部経理課主任	押 田 亜 希	医学系事務部会計課主任
工学系事務部情報科学研究科事務課主任	山 田 睦 代	環境科学事務部主任
【係員】		
監査室	左 海 賢 志	研究推進部産学連携課
総務企画部広報課	岸 紘 子	採用
財務部主計課	今 田 裕 一	施設部施設企画課
財務部主計課	細 木 直 大	医学系事務部会計課
財務部主計課財務管理室	永 瀬 浩 樹	北海道大学病院管理課
研究推進部研究振興企画課	青 木 文 男	帯広畜産大学経営管理部財務課
研究推進部研究振興企画課	熊 木 弥 広	医学系事務部会計課
研究推進部研究支援課	小 野 淳 貴	財務部調達課
施設部施設企画課	小田原 弘 明	学務部学生支援課
医学系事務部総務課	宮 本 大 悠 斗	総務企画部人事課厚生労務室
医学系事務部会計課	井 上 幸 江	財務部経理課
医学系事務部会計課	齋 藤 久	財務部主計課財務管理室
環境科学事務部	吉備津 侑 加	工学系事務部経理課
理学・生命科学事務部事務課	阿 部 康 二	小樽商科大学財務課
北海道大学病院総務課	小 川 靖 顕	北海道大学病院医事課
北海道大学病院経営企画課	小笠原 唯	工学系事務部情報科学研究科
北海道大学病院経営企画課	尾 崎 涉	獣医学研究科・獣医学部
北海道大学病院経営企画課	松 尾 安 優 子	総務企画部総務課
北海道大学病院管理課	小 野 貴 弘	北海道大学病院経営企画課
北海道大学病院管理課	武 井 智 裕	財務部調達課
北海道大学病院医事課	辻 芳 朗	医学系事務部総務課
低温科学研究所 (転出)	吉 田 早 織	理学・生命科学事務部事務課
小樽商科大学	山 岸 広 樹	財務部主計課
帯広畜産大学	泉 大 亮	研究推進部研究振興企画課
【技術職員等】		
北海道大学病院看護部看護師	相 原 友 里	採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院看護部看護師	芝原 麻友	採用
北海道大学病院看護部看護師	富樫 美香	採用
北海道大学病院看護部看護師	西田 由紀子	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤師	野平 晋太郎	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤師	古川 友恵	採用
【嘱託職員】 総合IR室	西田 久美子	総務企画部総務課

新任部局長等紹介

平成27年7月1日付

総合IR室長に



にっ た たかひこ
新田 孝彦 理事・副学長

平成27年7月1日付けで総合IR室が設置となり、室長として新田孝彦理事・副学長が発令されました。

任期は、平成29年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和26年8月7日
 昭和49年3月 北海道大学文学部卒業
 昭和51年3月 北海道大学大学院文学研究科修士課程修了
 昭和52年10月 北海道大学大学院文学研究科博士後期課程中退
 昭和52年11月 北海道大学文学部助手
 昭和59年7月 愛知県立大学文学部講師
 昭和62年10月 北海道大学文学部助教授
 平成6年9月 博士(文学) (北海道大学)
 平成7年8月 北海道大学文学部教授
 平成12年4月 北海道大学大学院文学研究科教授
 平成14年4月 } 北海道大学評議員
 平成16年3月 }
 平成16年4月 } 北海道大学大学院文学研究科長・文学部長
 平成18年3月 }
 平成19年5月 } 北海道大学役員補佐
 平成23年3月 }
 平成23年4月 北海道大学理事・副学長

新任教授紹介

平成27年7月1日付



法学研究科教授に

よねだ まさひろ
米田 雅宏 氏

法学政治学専攻現代法講座

生年月日

昭和51年 8月17日

最終学歴

東北大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学（平成16年7月）
博士（法学）（東北大学）

専門分野

行政法



公共政策学連携研究部教授に

たかの しんえい
高野 伸栄 氏

公共政策学部門

生年月日

昭和35年 5月29日

最終学歴

埼玉大学大学院政策科学研究科修士課程修了（昭和62年3月）
工学博士（北海道大学）

専門分野

都市地域交通計画，建設マネジメント



農学研究院教授に

こいずみ あきお
小泉 章夫 氏

環境資源学専攻森林資源科学講座
基盤研究部門森林科学分野

生年月日

昭和30年11月26日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了（昭和62年3月）
農学博士（北海道大学）

専門分野

木材工学



電子科学研究所教授に

うじい ひろし
雲林院 宏 氏

光科学研究部門光子情報研究分野

生年月日

昭和48年 8月21日

最終学歴

東北大学大学院理学研究科博士課程後期3年の課程修了（平成14年3月）
博士（理学）（東北大学）

専門分野

単一分子分光，プラズモニクス

新任部課長等紹介

平成27年7月1日付



財務部主計課財務管理室長に

あらかわ つよし
荒川 強 氏

- 平成7年3月 北海道大学法学部卒業
- 平成7年4月 北洋銀行美香保支店
- 平成11年7月 北洋銀行業務企画部
- 平成14年10月 北洋銀行経営管理部主査
- 平成18年4月 北洋銀行琴似中央支店調査役
- 平成21年4月 北洋銀行帯広中央支店課長
- 平成24年10月 北洋銀行北七条支店次長

編集メモ

●インフォメーションセンター「エルムの森」の入口に、この度、看板が掲げられました。佐伯 浩前総長が書かれた文字をもとに、インフォメーションセンター職員の小泉信隆氏が、ハルニレの木に転写して彫り、塗装等を施して完成させました。ハルニレの木は、元職員の藤井純一氏より提供を受けました。入口の右側に掲げていますので、お越しの際はぜひご覧ください。





2014.7.12 千歳線 上野幌～北広島（北広島市）

北の鉄道風景 28 線路沿いのサイクリングロード

北海道でも有数の過密ダイヤ路線である千歳線は、大正時代末期に北海道鉄道の札幌線として敷設された。その後、1943年の戦時買収によって国鉄千歳線となり、1987年の国鉄分割民営化の際に、国鉄からJR北海道へ継承されて現在に至っている。同線の苗穂駅から北広島駅の区間は、函館本線・苗穂駅の白石側から分岐後、月寒駅や大谷地駅などを経て北広島駅に至る経路で敷設されていた。しかし、同

区間は急勾配や急カーブなどの存在によって輸送上の溢路となっていたことから、1973年、新札幌駅を経由する新線に切り換えられた。苗穂～北広島間の旧線跡は、サイクリングロード「北海道道1148号札幌恵庭自転車道線」に転用されて、多くの人々で賑わっている。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑦ No.736 平成27年7月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html